KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立農用高所作業機
KCEB250/R



⚠ 注意

本機は個人農家向けの農用高所作業機です。
高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、 **共立農用高所作業機** をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、必要に応じいつでも読めるように保管してください。

お願い

- ●高所作業機を初めて使用する人は、お買上げいただいた販売店・ＪＡから作業注意事項について説明を受けてください。
- ●この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- ●本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- ●この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店・ＪＡにご注文ください。
- ●この取扱説明書には、安全に作業していただくために、**「安全に作業をするために必ずお守りください」**を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店・ＪＡへご相談ください。

おことわり

- ●本製品は改良のため､使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ●本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
［重要］	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、製品の破損や、故障の原因になります。

本製品のオーバーホール期限について

本製品は、経時的に材質が変化したり、繰返し使用されることにより、劣化、摩耗、疲労をおこします。これが原因で重大な人的および物的災害が発生するおそれがありますので、安全性をより高めるために、７０００時間または７年使用時のいずれか早く到来する方をオーバーホール期限とします。オーバーホール期限までに製品のオーバーホールをし、安全な状態で作業をされることをお勧めします。オーバーホールはお買上げいただきました販売店・ＪＡを通じまして、株式会社やまびこにご相談ください。

本製品の使用目的について

本製品は、個人向けの農用高所作業機です。高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。
2章 保証とサービスについて	●保証とアフターサービスについて説明しています。
3章 各部のなまえと各操作部のはたらき	●本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
4章 運転と作業のしかた	●発進、走行のしかた、および作業台の使用のしかたを説明しています。
5章 作業後の手入れについて	●製品を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
6章 手入れと点検・調整について	●長期間故障がなく、製品を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
7章 不調診断	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
8章 用語解説	●本文中に、出てくる用語について説明しています。
9章 その他	●仕様、および主要消耗部品について説明しています。
10章 電気回路図	●電気回路図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）……2
本製品のオーバーホール期限について……2
本製品の使用目的について……2

本文の概要　3

1章　安全に作業をするために必ずお守りください　6

1．作業者の体調・服装について……6
2．使用する製品について……7
3．運転前・作業前点検をするとき……8
4．作業をするとき……14
5．トラックへの積込み・積降しをするとき……22
6．格納をするとき……25
7．安全銘板の貼付け位置……26

2章　保証とサービスについて　28

保証書は大切に保管してください……28
アフターサービスをお受けになるときは……28
製品の廃棄について……28

3章　各部のなまえと各操作部のはたらき　29

4章　運転と作業のしかた　31

1．運転前の点検……31
2．バッテリの充電のしかた……32
3．発進・旋回・速度調整・停止のしかた……36
4．作業のしかた……42
5．坂道での運転のしかた……45
6．樹園への出入りのしかた……45
7．トラックへの積込み・積降しのしかた……46

5章 作業後の手入れについて 47

1．作業後の手入れ……47
2．長期間使用しない場合の手入れ……48

6章 手入れと点検・調整について 49

1．定期点検一覧表……50
2．定期交換部品……51
3．各部の注油・グリスアップのしかた……52
4．各部オイルの点検・交換のしかた……53
5．電気配線の点検のしかた……54
6．ヒューズ点検・交換のしかた……54
7．バッテリの点検・整備のしかた……55
8．昇降部の点検のしかた……56
9．クローラの張り調整のしかた……57
10．操向レバーの点検のしかた……58
11．締付けをするところ……59

7章 不調診断 60

1．電源が入らない……60
2．各部に振動が多い……60
3．まっすぐ走らない……60
4．走行しない……61
5．サーキットブレーカーが作動する……61
6．速度が遅くなった……61
7．作業台が上昇しない……62
8．稼働時間が短くなった……62
9．充電できない……62
10．音が鳴らない……62

8章 用語解説 63

9章 その他 64

1．主要諸元……64
2．主要消耗部品……65

10章 電気回路図 66

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

●本製品は圃場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
●ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や製品の破損が生じるおそれがあります。
●本文中にも重要な「**注意事項**」を記載していますので、必ずお読みください。
※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1．作業者の体調・服装について

⚠警告



■こんなときは運転しない

●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
●睡眠不足の人。
●視力不足のため表示内容が読めない人。
●取扱説明書の内容が理解できない人。
●酒を飲んだとき。
●妊娠しているとき。
●１８歳未満の人。
●運転が未熟な人。

【守らないと】

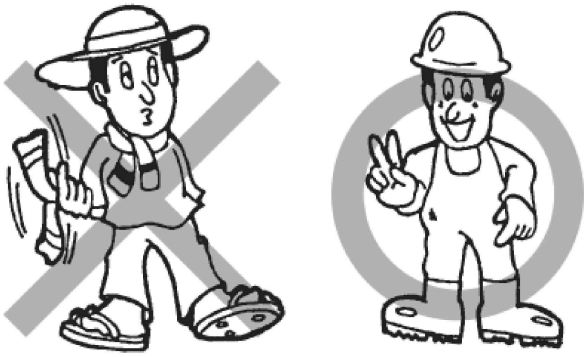
思わぬ事故の原因になります。

■作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオル・音楽用のイヤホンなどは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

製品に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



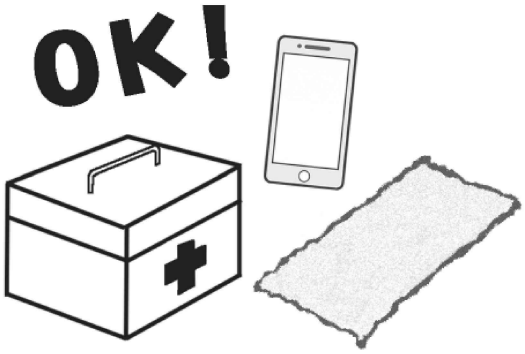
■けがへの備え

万一の事故やけがへの準備をしてください。

●救急箱（応急手当用）
●タオルやてぬぐい（止血用）
●呼子や携帯電話（外部との連絡用）

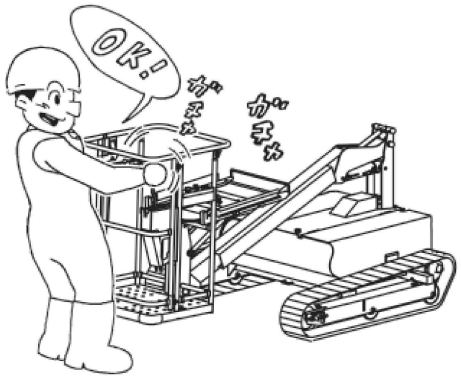
【守らないと】

緊急の応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化するおそれがあります。



2．使用する製品について

⚠注意

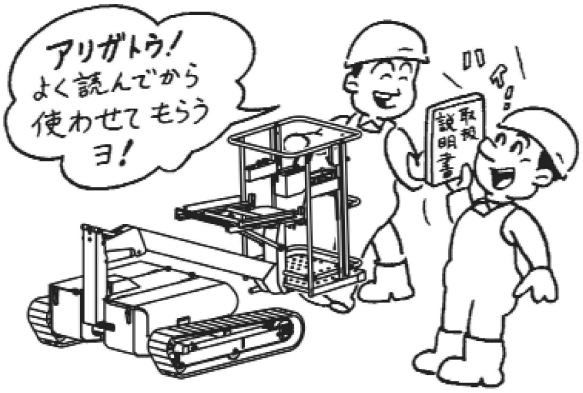


■点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず製品の点検、整備をしてください。特に、ブーム・平行リンクの変形・損傷の有無と操向レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や製品の故障を生じるおそれがあります。

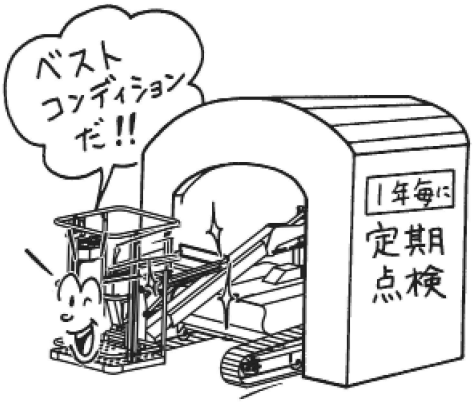


■製品を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、製品の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

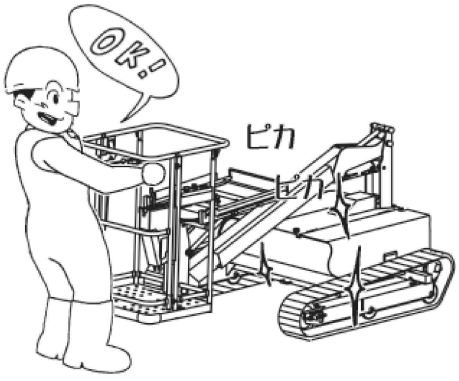


■定期点検、整備を受ける

１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や製品の故障をまねくおそれがあります。



■安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

製品には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。
操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、お買上げいただいた販売店・ＪＡに注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。

3．運転前・作業前点検をするとき

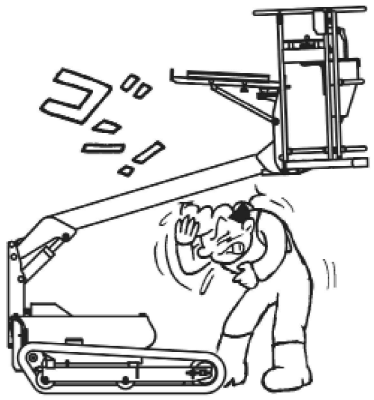
⚠危険

■点検、整備をするときは キースイッチを切る

点検、整備をするときや巻付いた草などを取除くときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてから行ってください。

【守らないと】

何らかの原因で荷台が落下したり、本製品が動いて機械に巻込まれたりして傷害事故をおこすおそれがあります。

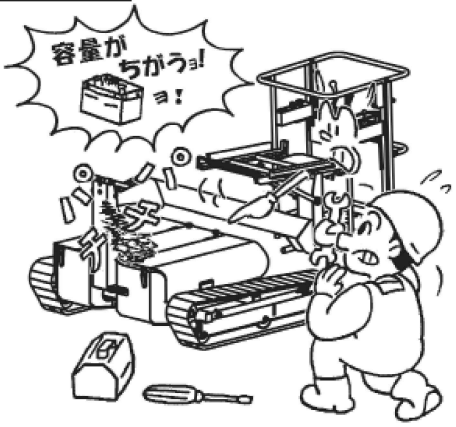


■必ず規定のバッテリを使用

バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。

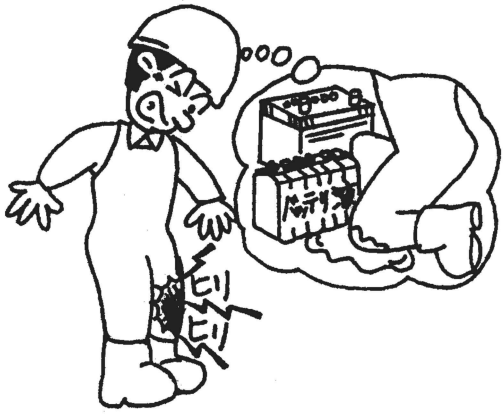


■バッテリ液は体につけない

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



■バッテリ取付け、取外しは正しい手順で

バッテリを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引きおこすおそれがあります。



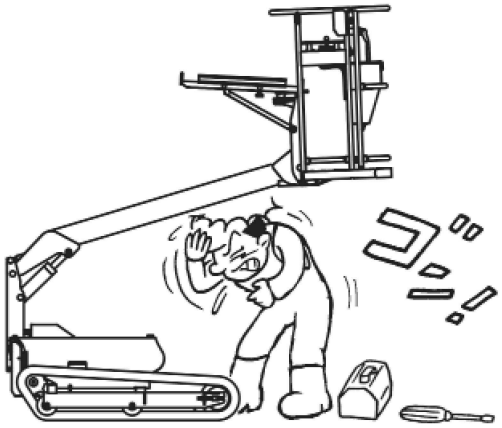
⚠危険

■ブームを上げての点検、整備はブームを固定

ブームを上げての点検、整備は、必ず支え棒などでブームが落下しないように固定してから行ってください。

【守らないと】

何らかの原因でブームが落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。

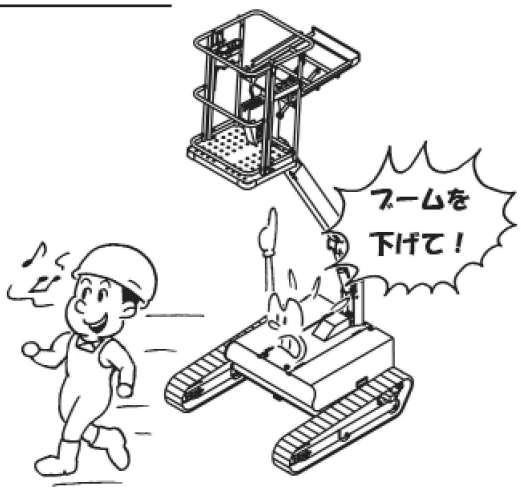


■製品から離れるときは、ブームを下げる

製品から離れるときは、ブームを一杯下げてから離れてください。

【守らないと】

何らかの原因でブームが落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。



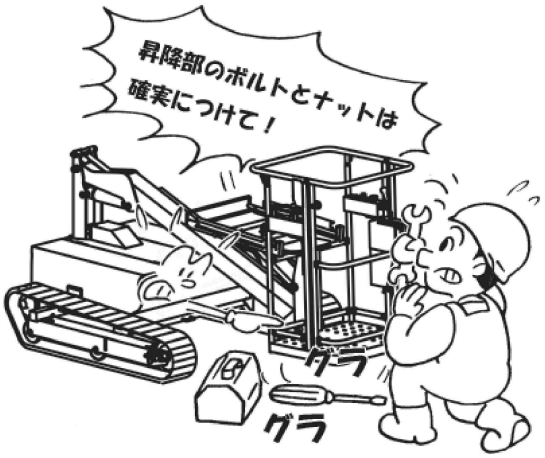
⚠警告

■昇降部のボルトとナットの締付確認

作業前には、必ず昇降部のボルトとナットの締付を確認してください。（55、56、58 ページ参照）

【守らないと】

ナットの脱落、ボルトの折損などにより転落事故の原因となります。

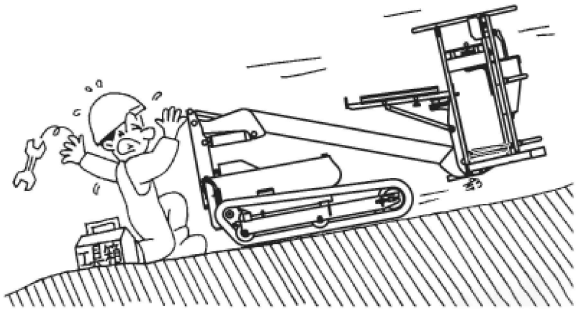


■点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、製品が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

製品が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

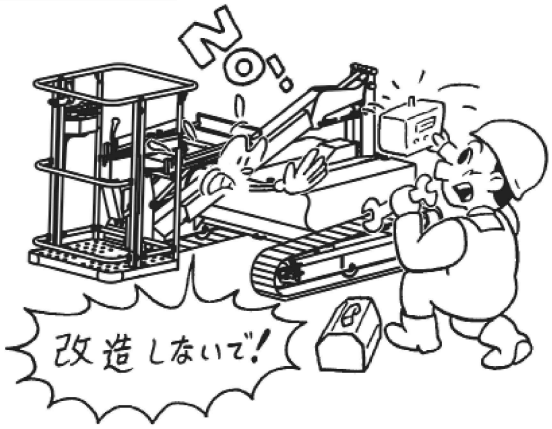


■製品の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。改造をしないでください。

【守らないと】

製品の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

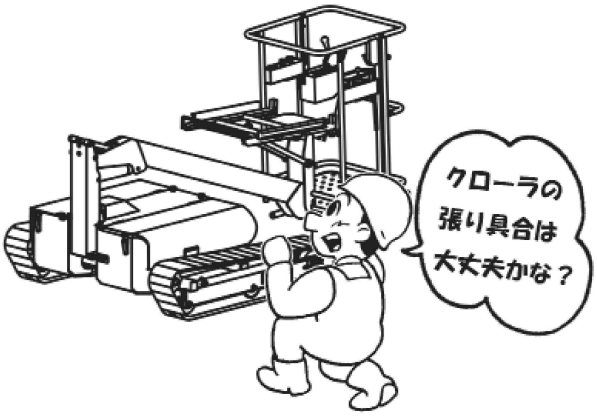


■クローラは必ず点検

クローラの張りを調整してください。クローラに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたり、切れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠警告

■トラッククローラ取付ボルトの締付け確認

トラッククローラの取付けボルトは、確実に締付けてあるかを確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。

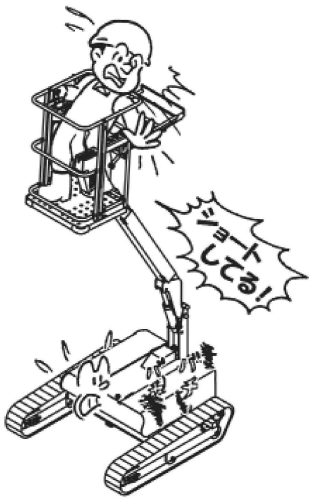


■電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。

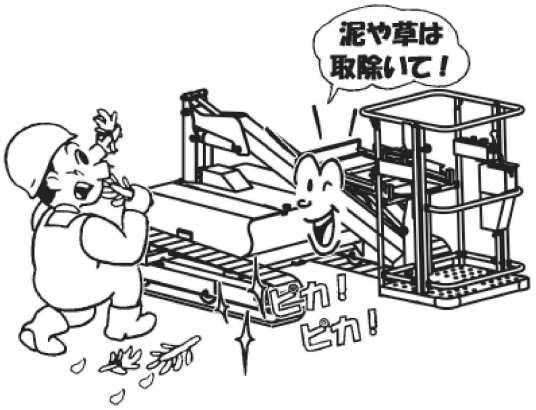


■アイドラーの草・泥などは取除く

アイドラーに草や泥が付着すると、クローラが外れたり切断するおそれがあります。作業前後に取除いてください。

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。



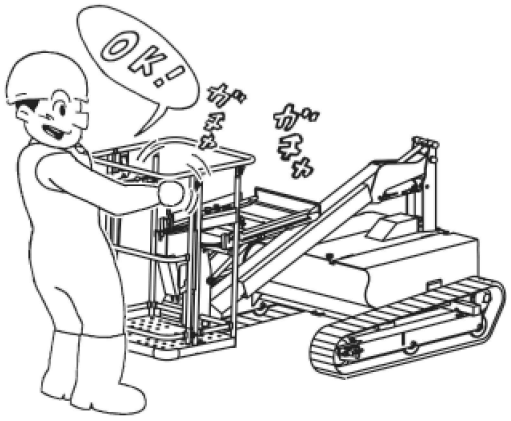
⚠注意

■操向レバーは必ず点検

操向レバーは適切に動作するか、取付部にガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

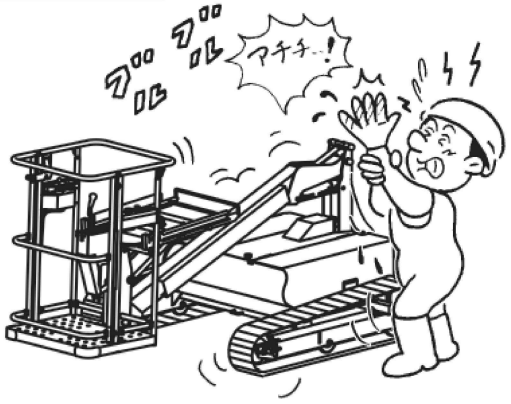


■点検、整備は高温部が十分冷えてから

モーターなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。

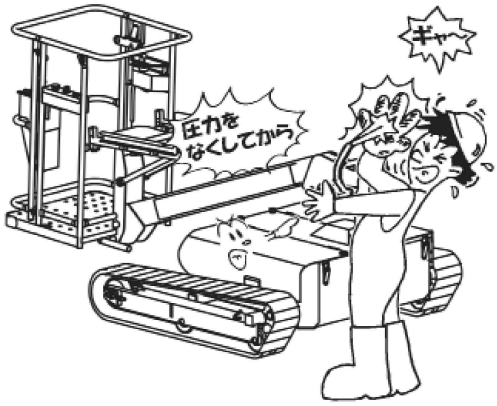


■高圧オイルに注意

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。

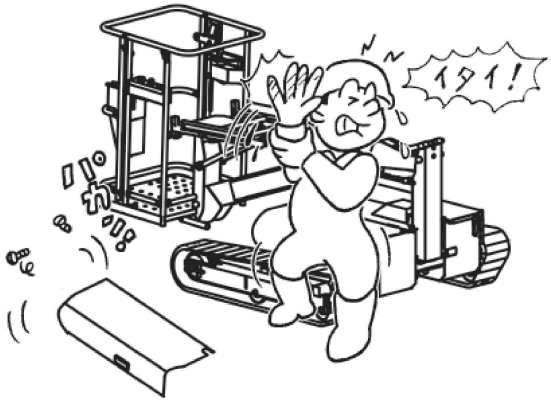


■カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

製品に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意

■部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときは電源を切る

【守らないと】

製品に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。

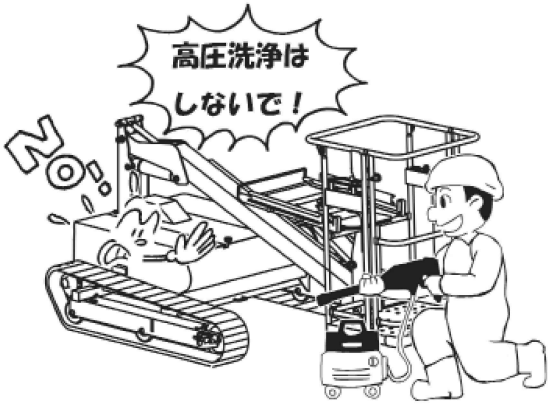


■水洗時は高圧洗浄禁止

電装部品に、高圧洗浄は行わないでください。水洗いを行う必要がある場合は、必ずキースイッチを「切」位置にし、充電器を本機から外してから行ってください。また、水洗後の乾燥を十分に行ってから外した充電器を取付て電源を入れてください。

【守らないと】

電装品の故障・誤作動・動作不良などの原因になるおそれがあります。



4．作業をするとき

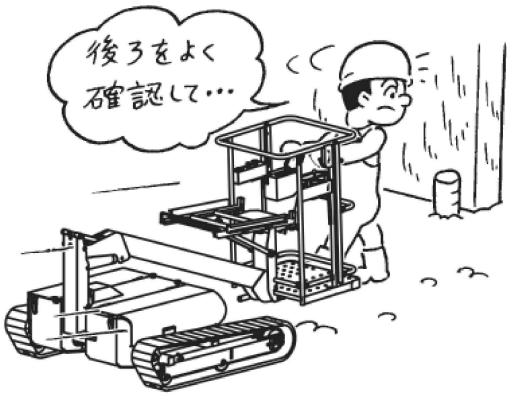
⚠危険

■後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と製品との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

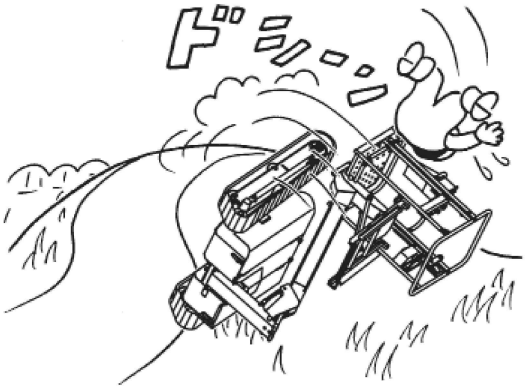


■傾斜地５度以上使用禁止

傾斜地での使用限度角度は５度以内にしてください。傾斜角が５度を超えると転倒の危険が高まり警告音を発報します。その場合は高所作業を控え、５度以下に整地してから使用してください。また、谷側にブームを振らないでください。

【守らないと】

転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。



■移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

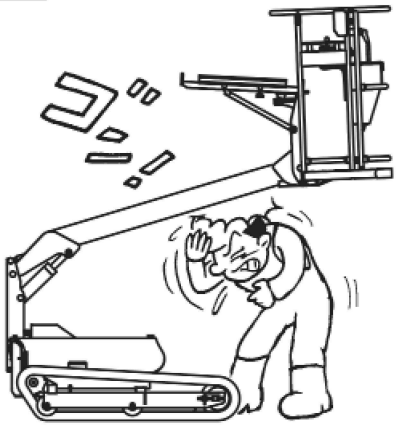


■農用高所作業機のブームの下は立入厳禁

製品の下にもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で製品が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



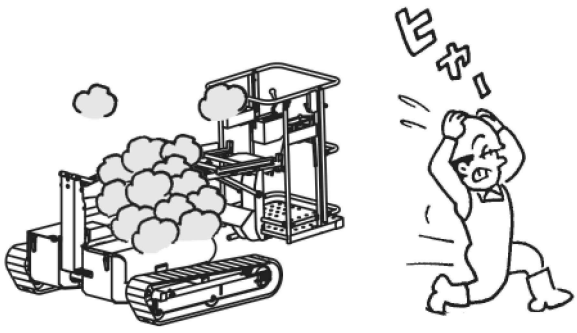
⚠危険

■発火時は、まず身体の安全を確保

バッテリから発火、または発煙したら、まず製品から離れ、身体の安全を確保してください。周囲に類焼しないようにシャベルで砂をかけるか、または消火器で消化してください。

【守らないと】

火傷や火災事故を引きおこすおそれがあります。



■作業中は開閉ゲートをロック

【守らないと】

転落により傷害をまねくおそれがあります。



■高所作業時は機体の周囲、頭上の安全を確認

【守らないと】

はさまれ事故のおそれがあります。

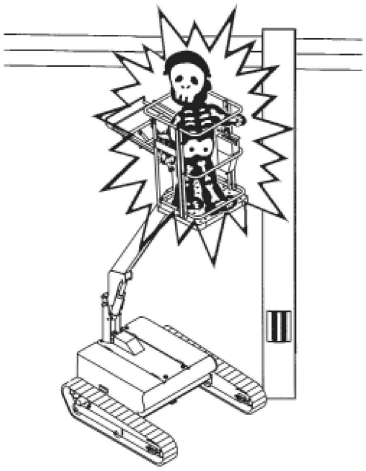


■電線近くの作業禁止

この製品は絶縁されていません。

【守らないと】

感電事故のおそれがあります。



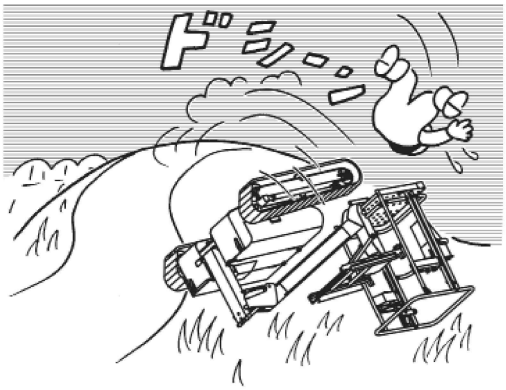
⚠危険

■夜間作業禁止

製品を使用しての夜間作業や、暗闇での点検はしないでください。

【守らないと】

製品に巻込まれたり、視界がきかずバランスを崩し、転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

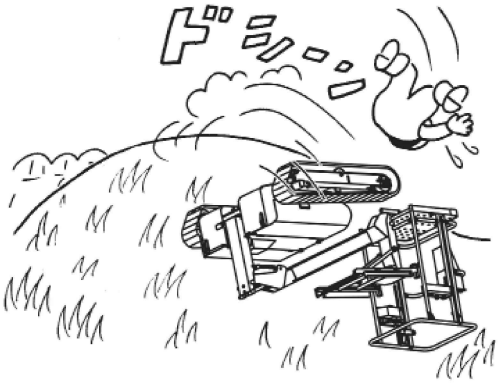


■悪天候、悪路、軟弱地の使用禁止

強風のときや凸凹の多い場所、地面が軟らかい場所では使用しないでください。

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。



■墜落制止用器具（オプション）はガードレールに

墜落制止用器具（オプション）を使用する場合は、ガードレールに確実にセットしてください。

【守らないと】

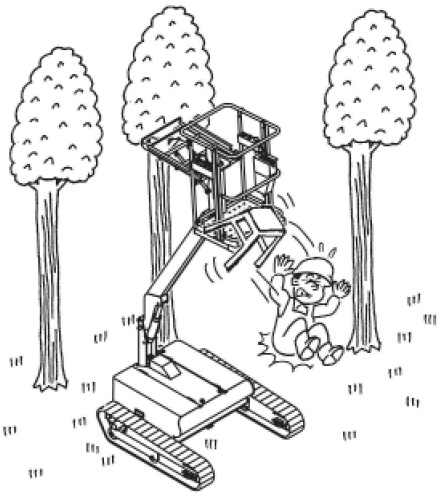
墜落制止用器具はガードレールに取付けてください。間違って扉に取付けると扉が不用意に開いたら転落のおそれがあります。



■作業台上のハシゴ、補助台使用禁止

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。



⚠危険

■過積載禁止

最大作業能力［作業台（100 kg＝作業者の体重と積載物）］以内で運転してください。

【守らないと】

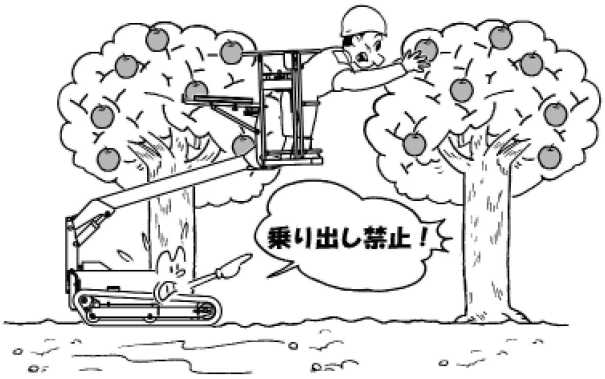
転倒などにより製品の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■作業台からの乗り出しや、荷物のはみ出し禁止

【守らないと】

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



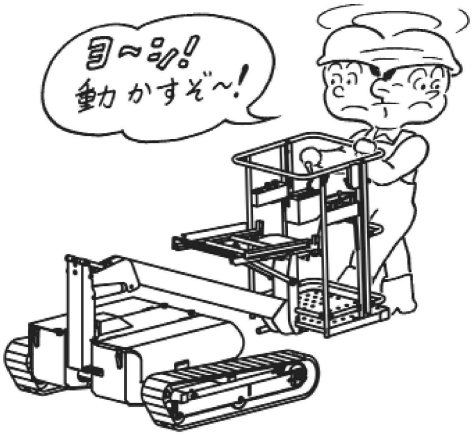
⚠警告

■スタート時（発進）は周囲確認

スタート時（発進）は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

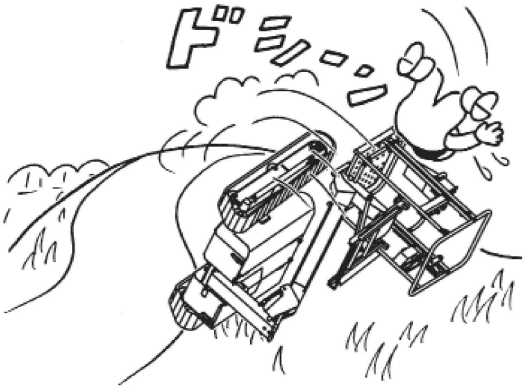


■急な坂道では旋回操作禁止

急な下り坂では、旋回操作をしないでください。急な下り坂では、適切な速度で、いつでも停止できる姿勢で運転してください。

【守らないと】

思わぬ方向に製品が旋回して、転落などの事故をまねくおそれがあります。



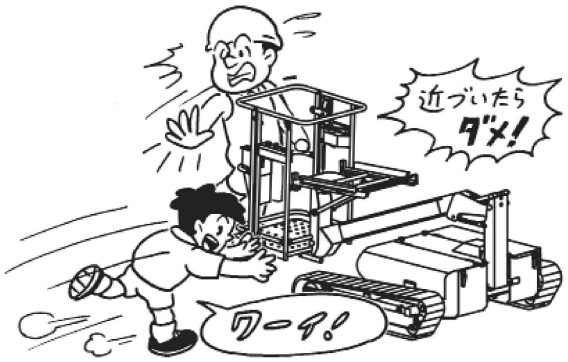
⚠警告

■人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

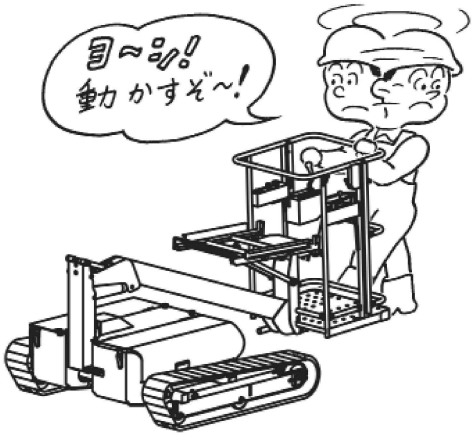


■周囲に合図してゆっくりと発進

発進するときは、必ず操向レバーを「停止」位置にし、周囲の人に合図をしてからキースイッチを「入」位置にし、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

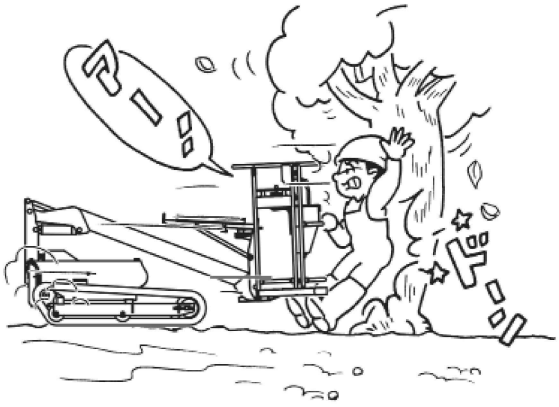


■操向レバーを操作したまま、キースイッチを「入」位置にしない

キースイッチを「入」位置にしたときに突然動き出します。必ず操向レバーを「停止」位置にしてからキースイッチを入れてください。

【守らないと】

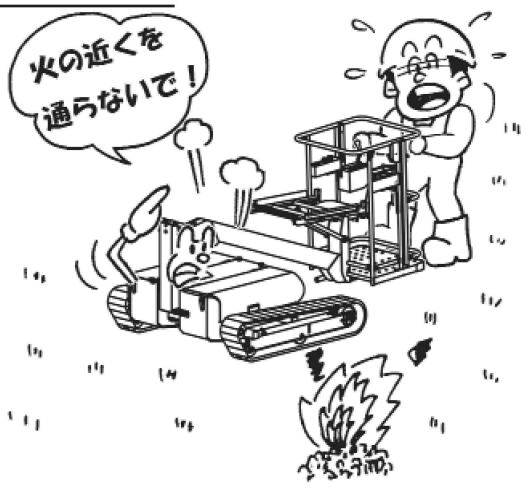
思わぬ障害事故をおこすおそれがあります。



■燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

オイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



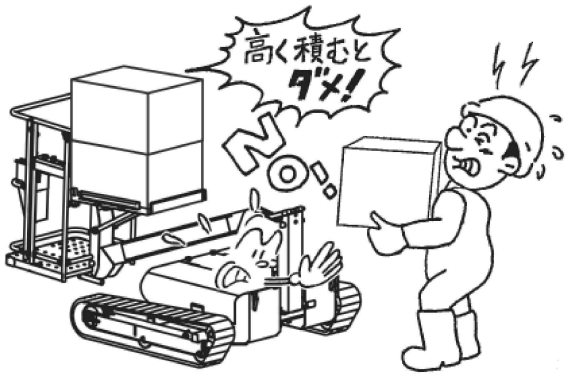
⚠警告

■積載物を高く積まない

積荷が高くなると製品のバランスが崩れやすく、また前方の障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。

【守らないと】

製品の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

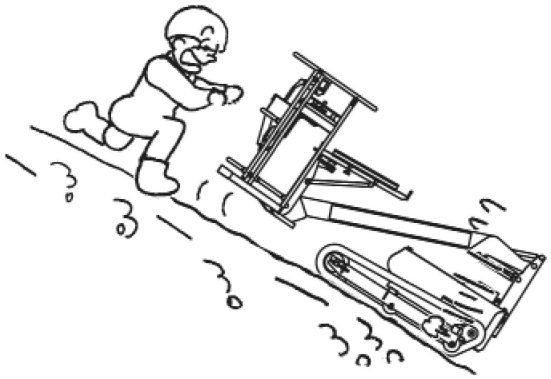


■急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、速度調整ダイヤルで、適切な速度に調整して走行してください。

【守らないと】

製品の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

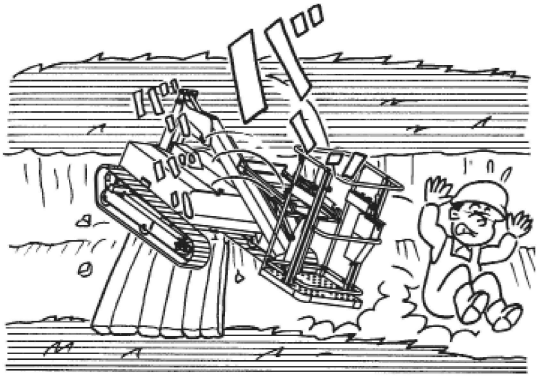


■溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用

樹園に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が製品に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

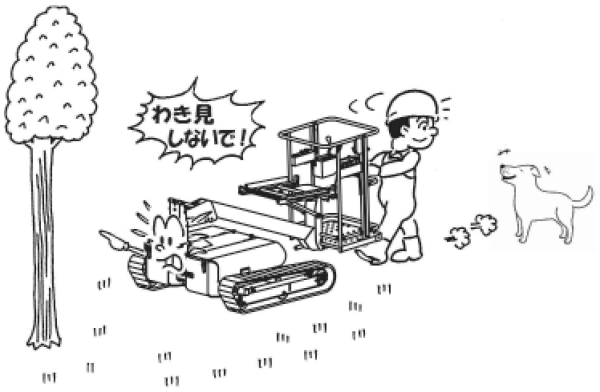


⚠警告

■わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。

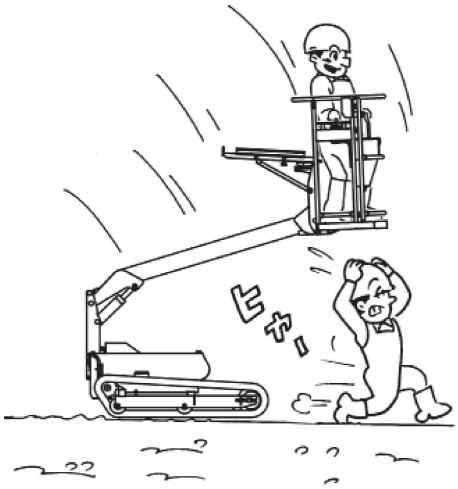


■可動部は近づかない

ブームは上下、左右の動きをします。周囲に合図し、障害物に気をつけてください。

【守らないと】

はさまれたり障害物に接触して事故をまねくおそれがあります。

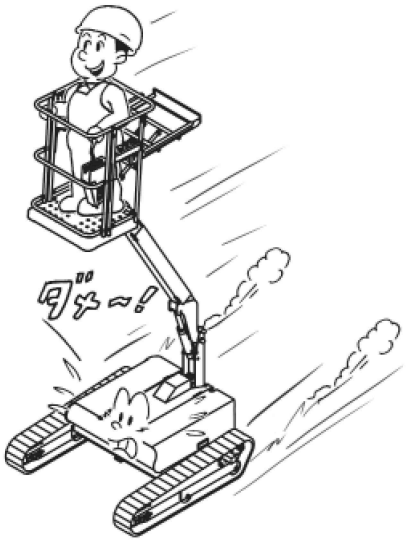


■ブームを上げた状態で走行禁止

移動時はブームを下げて、歩行運転をしてください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



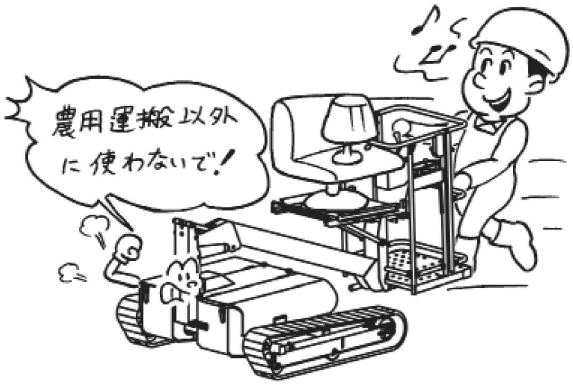
⚠注意

■農用の高所作業以外は使用禁止

この製品は、個人向けの農用高所作業機です。高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。また公道での走行はしないでください。

【守らないと】

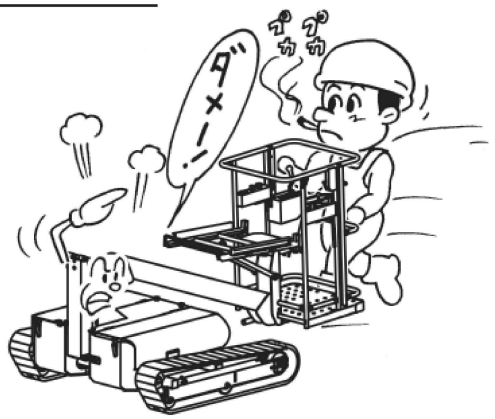
思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

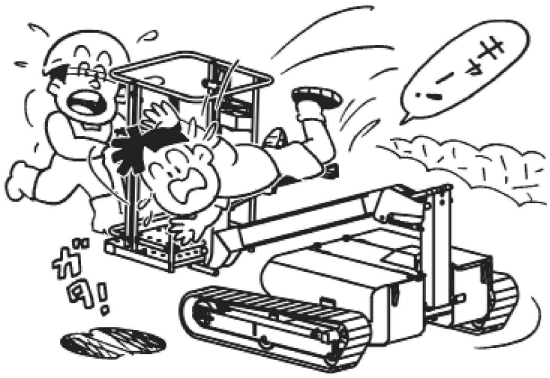


■コンテナ台には乗らない

走行中はコンテナ台に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

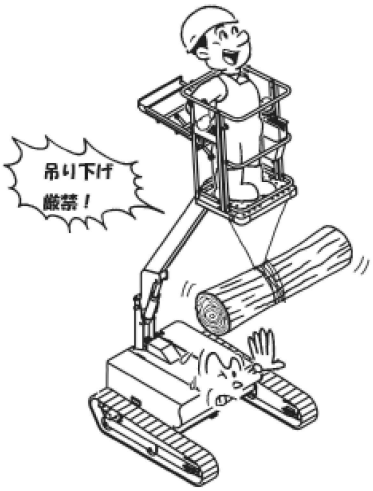


■作業台に荷物の吊り下げ厳禁

作業台に荷物などを吊り下げて運んだり移動させたりしないでください。

【守らないと】

製品の破損をまねき、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。



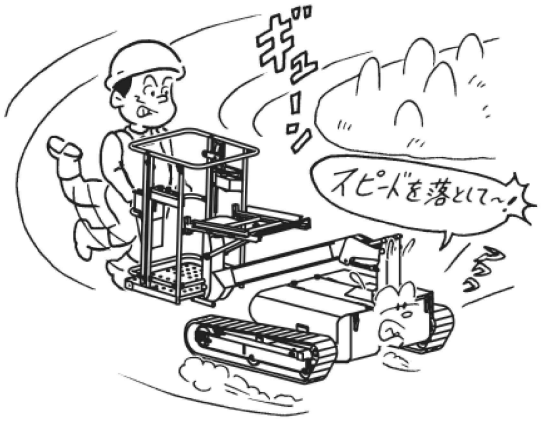
⚠注意

■急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道、カーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、製品の破損をおこすおそれがあります。

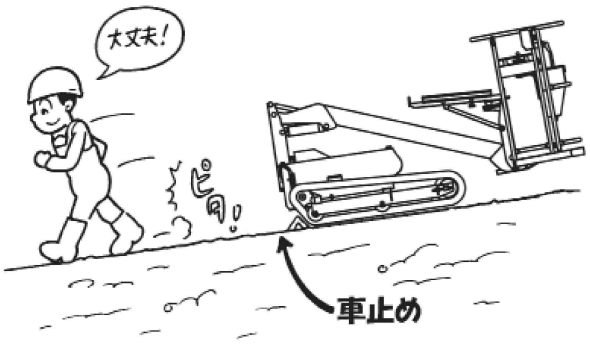


■製品から離れるときは平坦地に置きキースイッチを切る

製品から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、操向レバーを「停止」位置にしてキースイッチを切ってください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

製品が動きだし、事故の原因となります。



5．トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠警告

■強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛けて車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

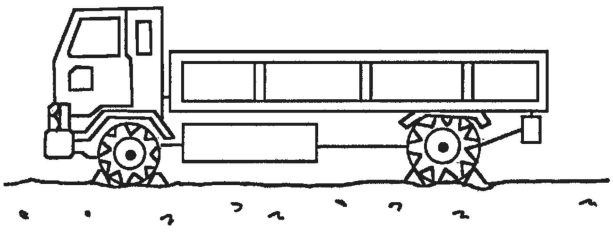
- **長さ**…トラックの荷台高さの４倍以上
- **幅**……クローラ幅の 1.5 倍以上
- **強度**…製品の総重量に十分耐えるもの（１本当たり）
- **表面**…スベリ止めのあるもの
- **形状**…固定フックのあるもの

■トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「１速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



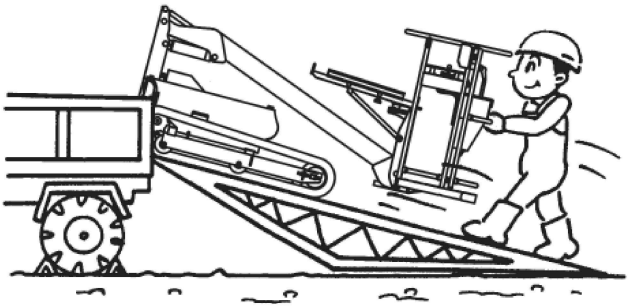
⚠警告

■あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて製品が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、製品の破損をまねくおそれがあります。

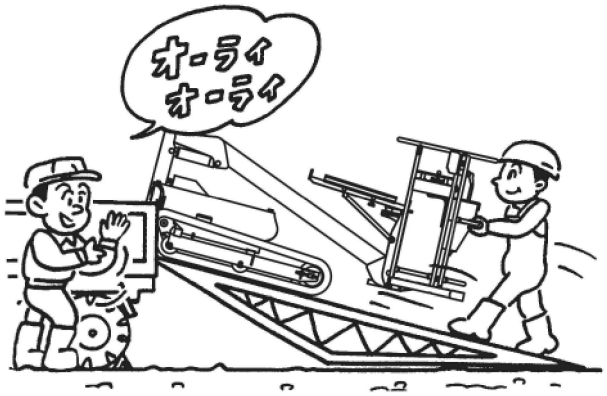


■積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

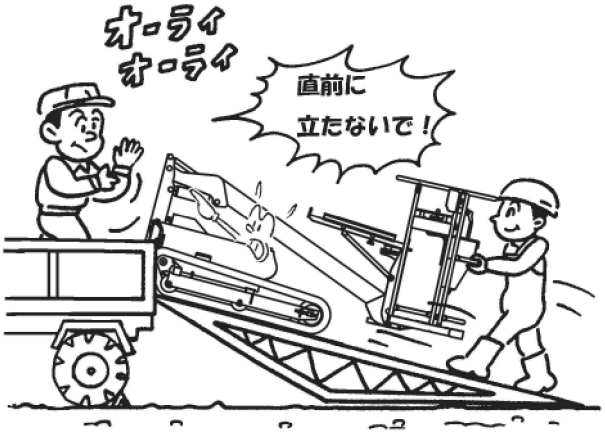


■積込み・積降し作業中、製品の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、製品の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。

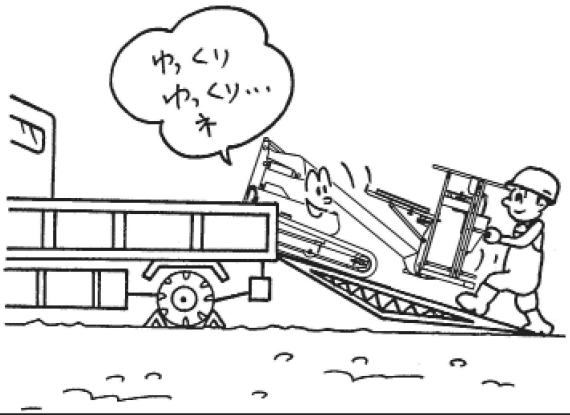


■登るときは前進、降りるときは後進でおこなう

積込みの場合「前進」、積降しの場合は「後進」の低速で行ってください。あゆみ板とトラックの荷台の継目を越えるときは、急に重心が変わりますので注意して走行してください。乗車運転はしないでください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



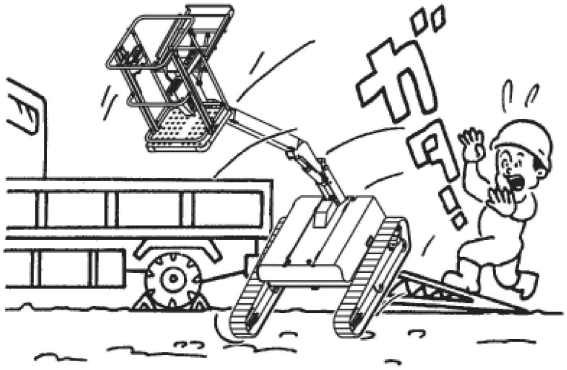
⚠警告

■ブームを下げてあゆみ板を使用

あゆみ板を使用して積込み、積降しをするときは、製品のブームを下げ、荷物を載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。

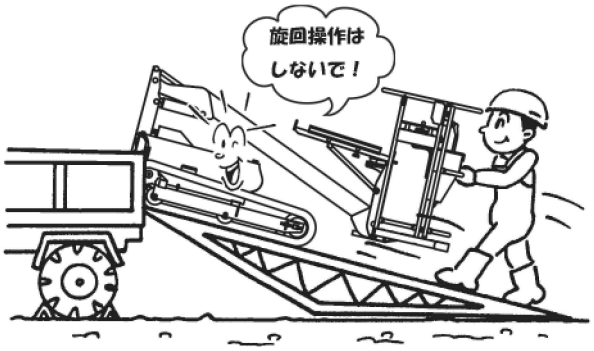


■あゆみ板の上では旋回操作厳禁

あゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、操向レバー操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本製品のキースイッチを「切」位置にしてから動かないように車止めをし、ブームは下げて荷物は積まない状態で、強度の十分あるロープでトラックに製品を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから製品が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



6．格納をするとき

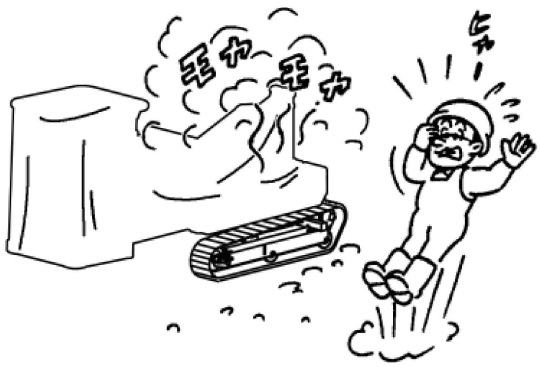
⚠危険

■シートは製品が十分冷えてから

電源を切ってモーターやその周辺のカバーが完全に冷えてからシートを掛けてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすことがあります。



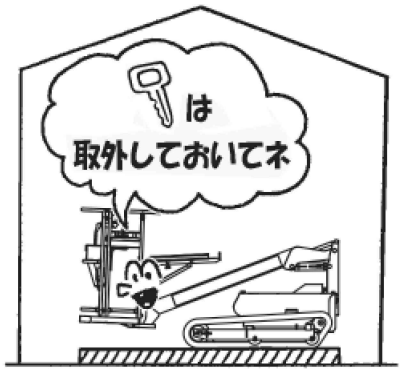
⚠警告

■長期格納時はキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はキーを抜取り、バッテリを取外して保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



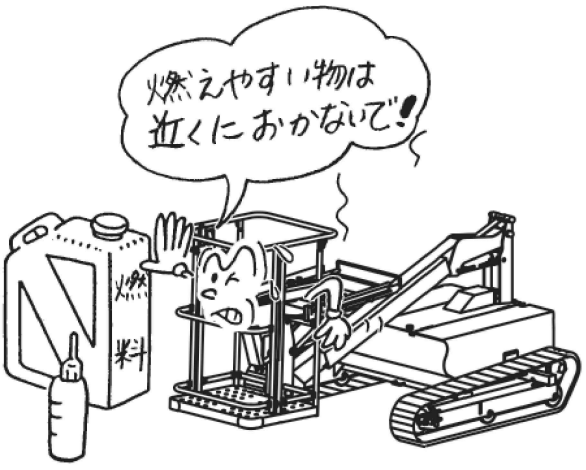
⚠注意

■製品の近くに可燃物を置かない

製品を格納するときは、平坦で安定した、軒下などの雨雪を防げる場所に置くのが望ましいです。やむを得ず傾斜地に止める場合は車止めをし、野外に置く場合は必ずシートカバーをかけてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

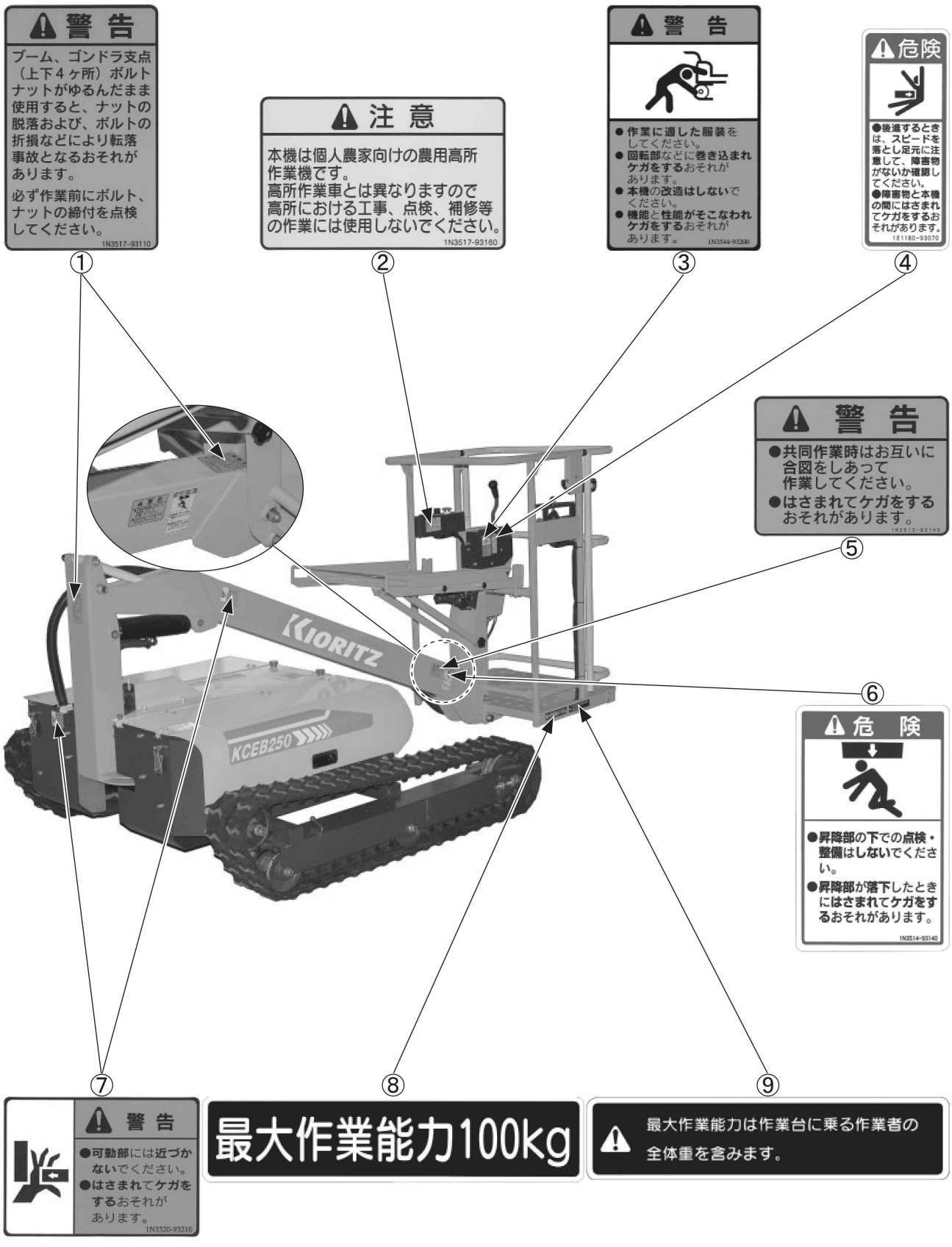
【守らないと】

製品が動きだしたり、火災事故を引きおこすことがあります。



7．安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





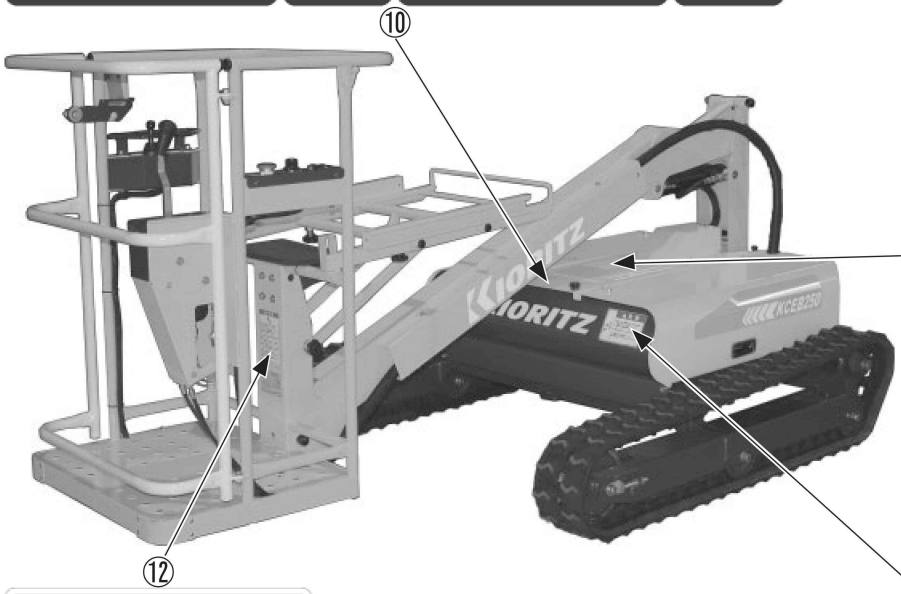
定期交換部品

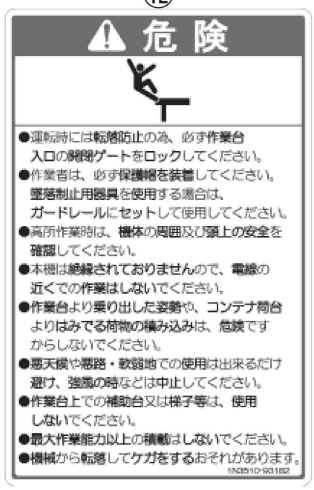
機械を安全に長時間使用していただくために、定期的な点検、整備を必ず実施してください。安全性をより高めるため特に安全面に関係の深い下記部品について定期的にアワーメータで時間を確認したうえで交換してください。これらの部品は経時的に材質が変化したり、繰り返し使用されることにより、劣化、摩耗、疲労をおこします。これが原因で重大な人的および物的災害が発生するおそれがあります。しかも運転感覚や外観検査ではこれらの部品の残存寿命を判定するのが難しい部品です。また、交換時期以前でも定期的な点検、整備で異常が認められた場合には同様に交換してください。部品の交換は、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

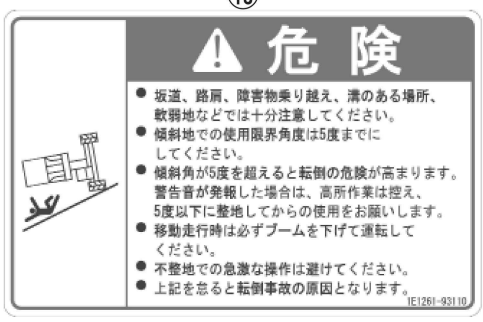
定期交換部品	交換時期
シリンダーピン	3000時間 又は 3年
ブーム支点軸	4000時間 又は 4年
平行リンク軸	4000時間 又は 4年
油圧ホース	4000時間 又は 4年

部品番号は取扱説明書に記載されています。

1E1261-93130







No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
1	1N3517-93110	警告（ブームゴンドラ支点）	8	1N3510-93150	最大作業能力表示マーク
2	1N3517-93160	注意（農用高所）	9	1N3513-93210	最大作業能力（作業者）
3	1N3544-93200	警告（服装・改造）	10	1E1261-93100	警告・注意一式（高所）電動高所
4	1E1180-93070	危険（後進時）	11	1E1261-93130	定期交換部品表　電動ブーム
5	1N3513-93140	警告（共同作業時）	12	1N3510-93182	危険（高所作業時）
6	1N3514-93140	危険（昇降部の下）	13	1E1261-93110	危険（坂道・傾斜地・移動）電動ブーム
7	1N3520-93210	警告（可動部）			

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

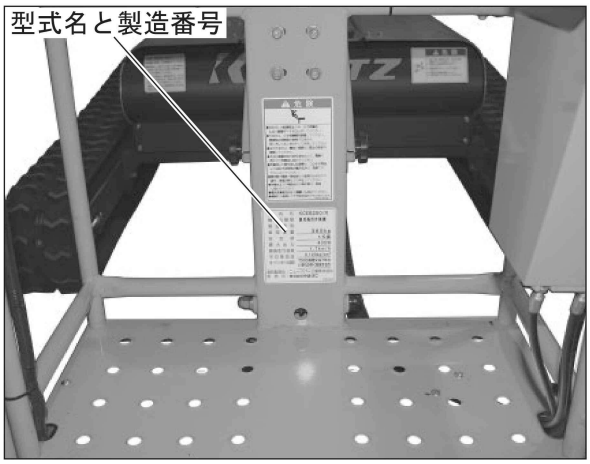
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

製品の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店・ＪＡまでご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- ●型式名と製造番号
- ●どのくらい使用されましたか？
  （約□□□時間使用後）
- ●ご使用状況は？
  （どのくらいの速度で、どんな作業をしていたときに）
- ●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



〈補修部品の供給年限について〉
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品の廃棄について

この製品を廃棄する場合、購入された販売店もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。
法律に違反する行為は絶対にしないでください。
詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

●扉

●ブーム操作レバー（ジョイスティック）
ブームの上昇・下降、およびスイング操作をするときに使用します。

●操向レバー
前進、後進、旋回するときに使用します。

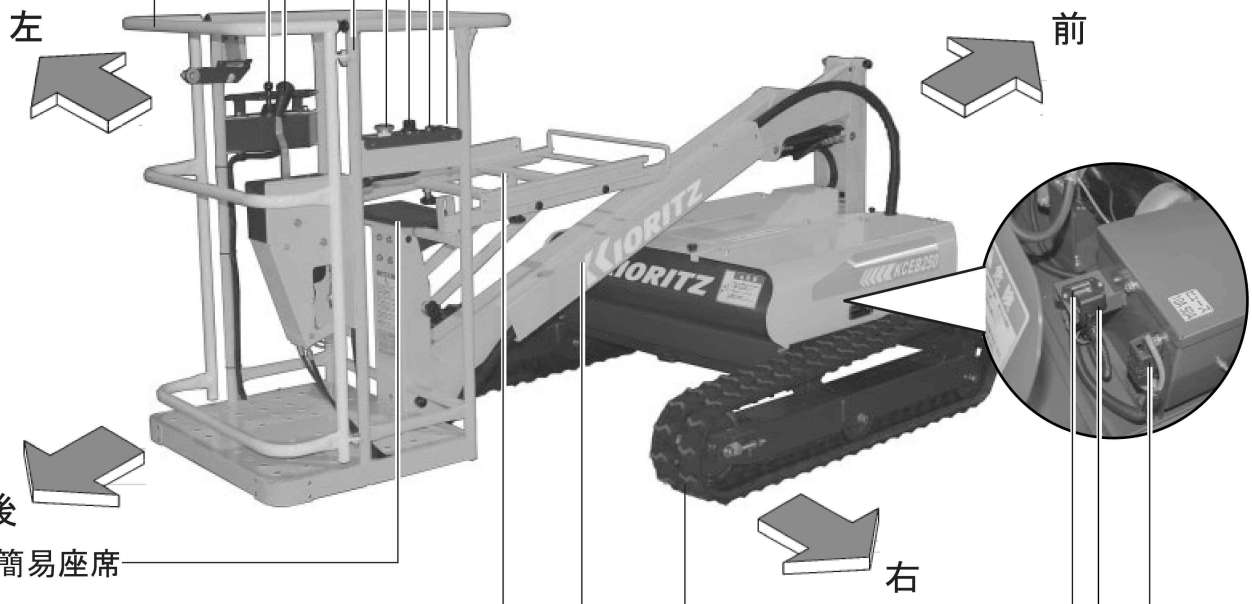
●ガードレール
作業者の安全を守るための柵です。

●停止スイッチ
押すと電源が切れます。

●走行速度調整ダイヤル
速度の調整をするときに使用します。

●インジケータ
キースイッチが「入」位置で点灯します。

●バッテリゲージ
バッテリの充電残量を表示しています。



●簡易座席

●コンテナ台

●ブーム
２本のシリンダーで上下、左右に移動します。

●クローラ

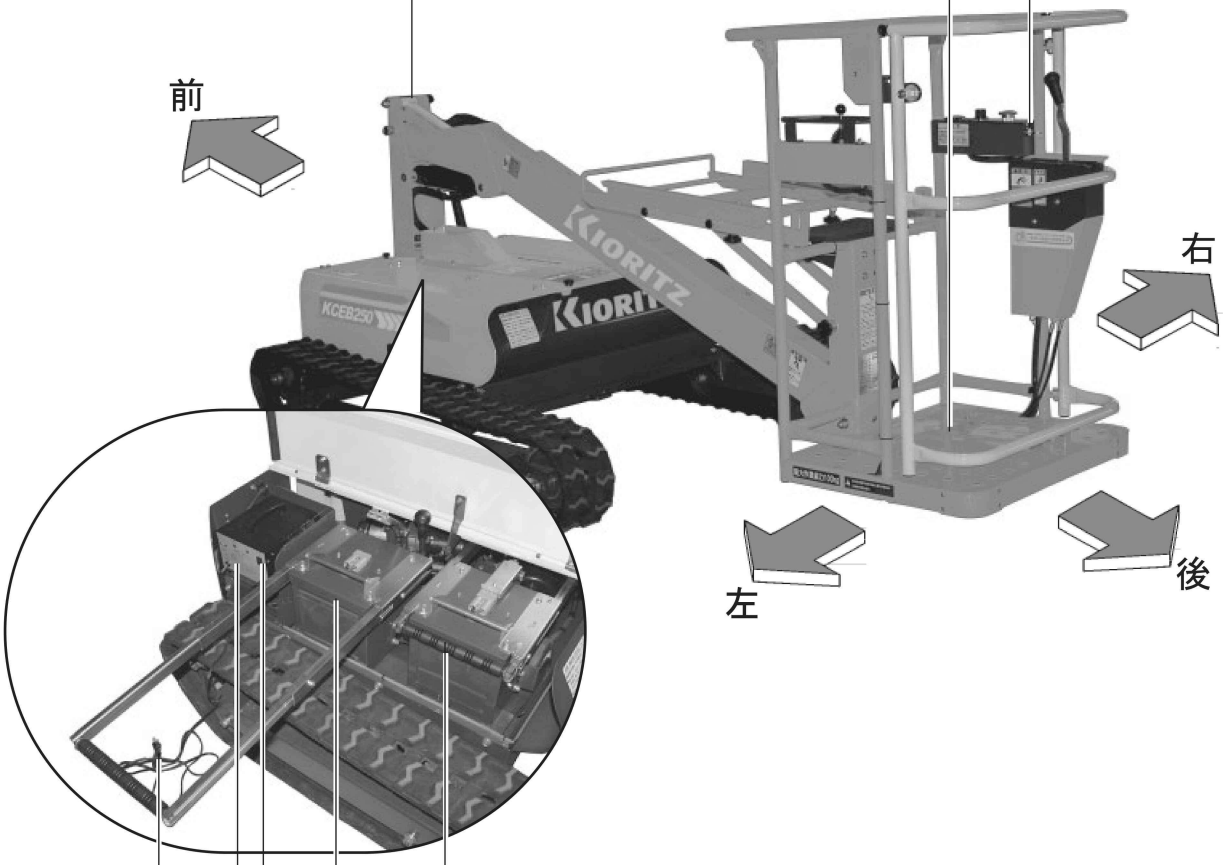
●アワメータ
点検、部品交換時に、この時間を目安にします。

●ヒューズボックス

●キースイッチ
本製品の始動・停止に使用します。

●作業台

●平行リンク
作業台の平行を保つため
のものです。



●バッテリ
２つあります。

●充電器スイッチ

●充電器

●電源プラグ
充電するときに使用します。（100V 電源）

1．運転前の点検

⚠危険

●点検、整備を行うときは、キースイッチを「切」位置にしてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

●ブーム・平行リンクが変形・損傷したまま使用すると転落により、思わぬ事故の原因となります。

⚠警告

●点検、整備は、交通の危険がなく製品が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

●昇降部のボルトとナットの締付けを必ず確認してください。ナットの脱落、ボルトの折損などにより転落事故の原因となります。

⚠注意

●点検、整備を行うときは、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと製品に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行うには、製品を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

①前日の異常箇所

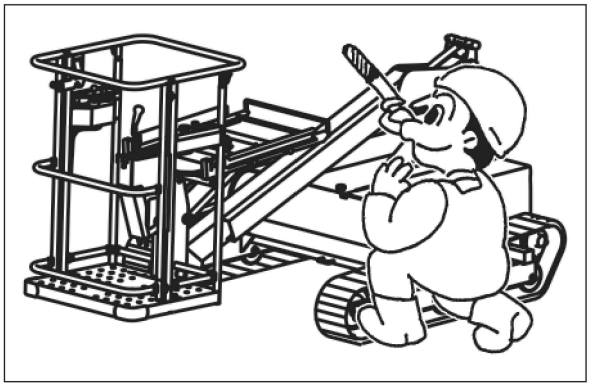
●前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②製品のまわりを回ってみて

●ブーム・平行リンクの変形・損傷

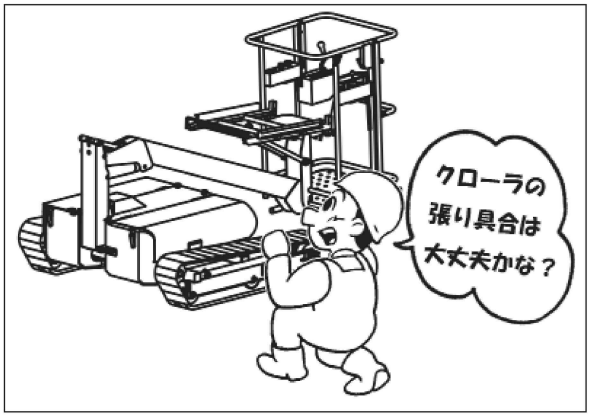
●各部の変形・損傷・汚れ

●走行ミッションオイルの量と汚れ、油もれ…53



●油圧オイルの量と油もれ ……53

●クローラの張り具合・摩耗度合・損傷 ……57

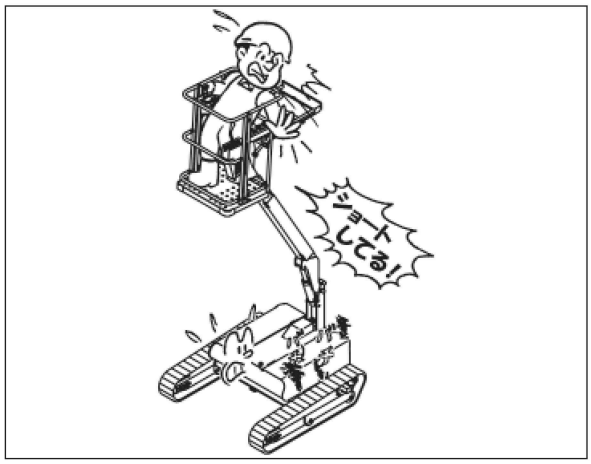


●昇降部のボルト・ナットのゆるみ ……56、57、59

●トラックローラ取付けボルト・ナットのゆるみ ……59

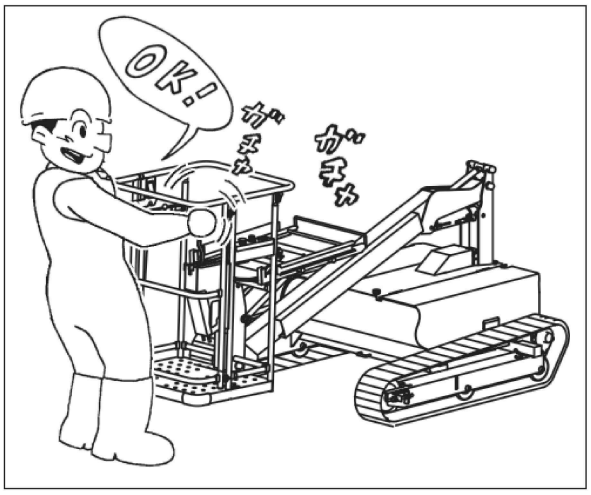
●機体各部の損傷、ボルトのゆるみ ……59

●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
……54



③レバーを操作してみて

●各レバー・スイッチの作動状態　　……58



④走行してみて

●走行中の異音

２．バッテリの点検、充電のしかた

⚠危険

●バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。

⚠警告

●濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。必ず手の水分を良く拭取り、濡れたプラグはよく乾燥させてください。感電するおそれがあります。

⚠注意

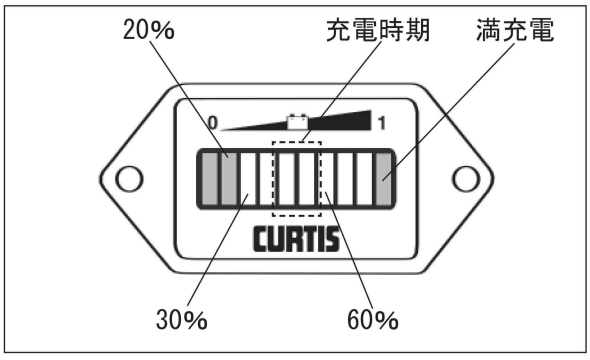
●バッテリの充電中は、バッテリと充電器が発熱しますので、本機のカバーを開放して換気を行ってください。守らないと火傷を負うおそれがあります。

［重要］

●本機初回使用時は、満充電にしてからご使用ください。

充電はバッテリ残量の約５０％で充電するのが理想的です。最低でもバッテリゲージの左から３番目が点灯した時点で作業を中止して必ず充電してください。さらにバッテリ残量が減ると左端と２番目のランプが交互に点滅します。この状態が続くとバッテリの状態が著しく低下し、走行できなくなります。

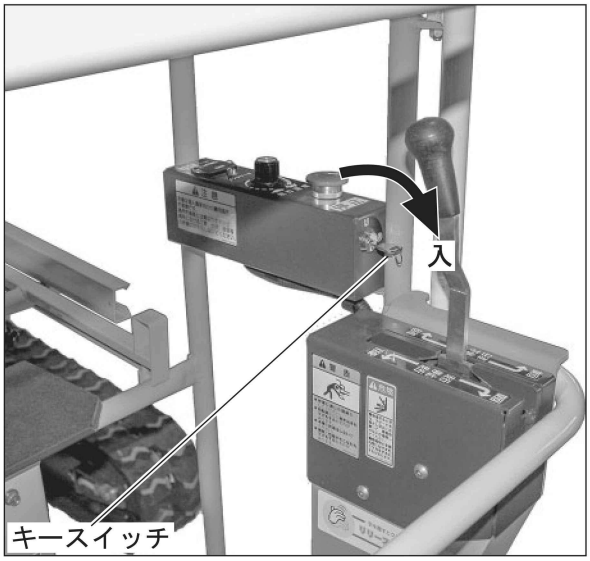
バッテリゲージの見方



※バッテリ残量が 10%で左端と２番目が交互に点滅し、バッテリの状態が著しく低下します。

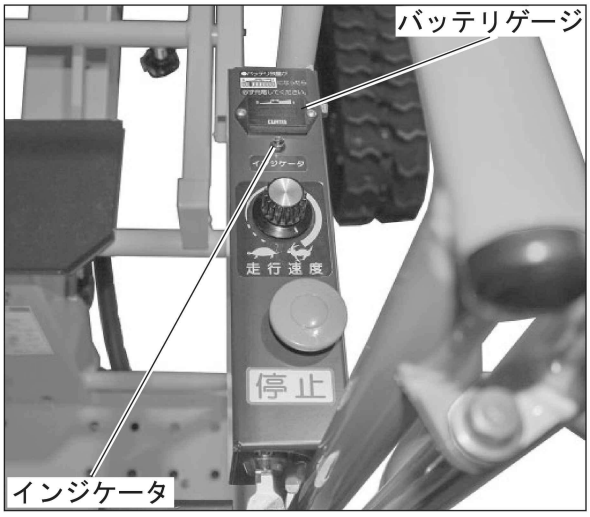
点検のしかた

①キースイッチを「入」位置にします。インジケータとバッテリゲージが点灯します。



※電気系統の故障の場合、インジケータが点滅します。販売店・ＪＡにご相談ください。

②バッテリゲージで充電残量を調べ、不足している場合は、充電してください。



[重要]

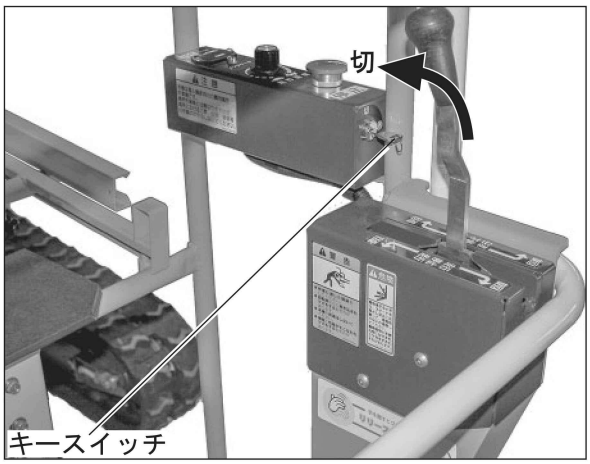
●バッテリを長持ちさせるために、こまめにバッテリを充電してください。

●過放電しすぎるとバッテリの寿命が短くなります。

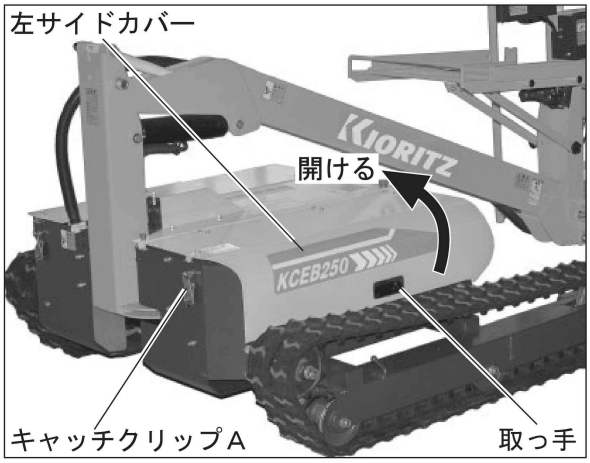
左サイドカバーの開け方

充電器は本体左側にあります。

①キースイッチを「切」位置にします。



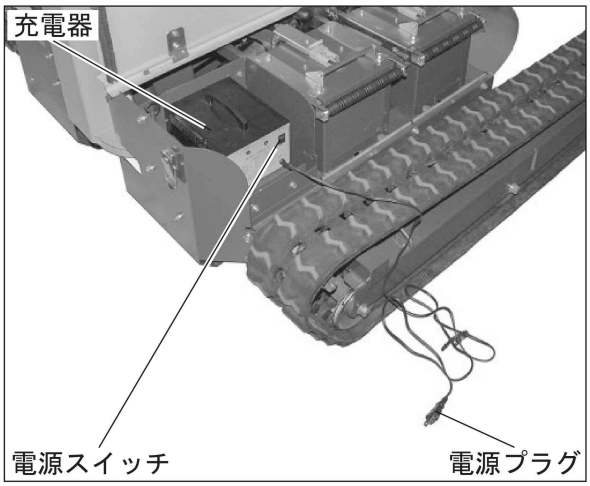
②前面のキャッチクリップＡを外し、左の取っ手を持ち上げると左のサイドカバーが開きます。



充電のしかた

《本機の近くに
家庭用ＡＣ１００Ｖコンセントがある場合》

充電器の電源スイッチが「ＯＦＦ」になっている事を確認し、電源プラグを家庭用ＡＣ１００Ｖコンセントに差込みます。
→ 35 ページの手順⑦へ進んでください。



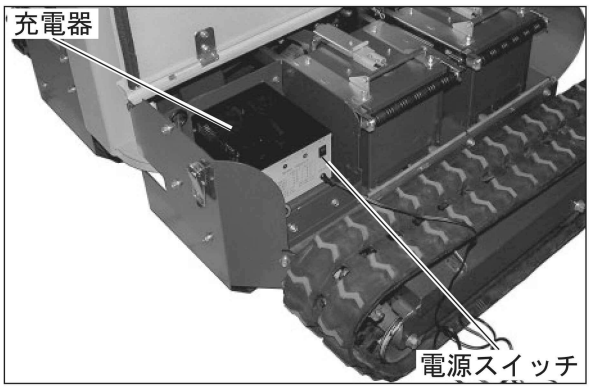
［重要］

●バッテリを充電するときは必ず２個同時に行って下さい。

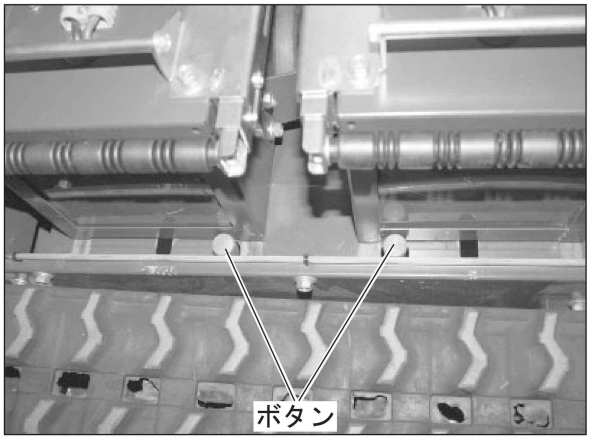
《本機の近くに
家庭用ＡＣ１００Ｖコンセントがない場合》

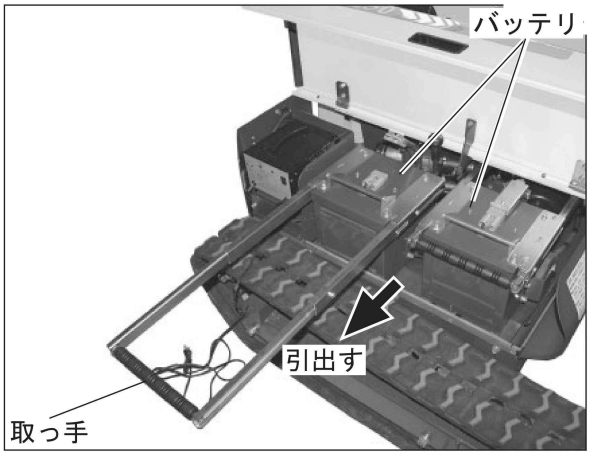
圃場内作業中にバッテリの低下で走行できなくなるなど、本機をコンセントの近くに置けない状況である場合、充電器とバッテリを取り出して充電する方法があります。

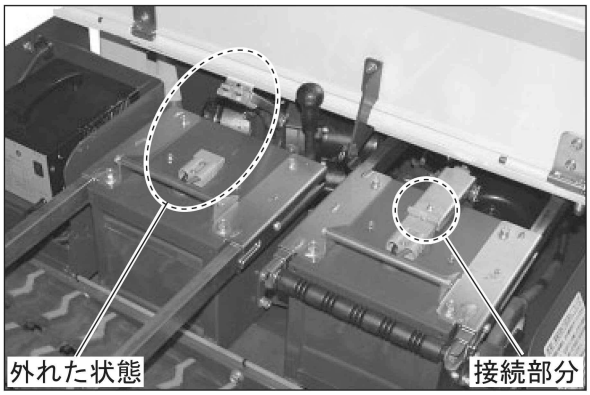
①充電器の電源スイッチが「ＯＦＦ」になっている事を確認してください。



②本体底面にある赤いボタンを押し下げ、バッテリの取っ手を引出して、バッテリと充電器の接続部分を外します。





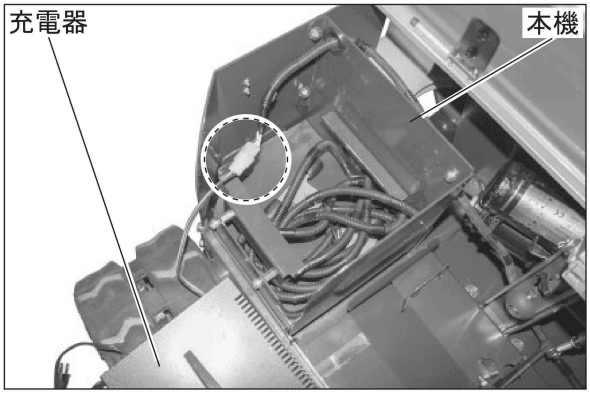


［重要］

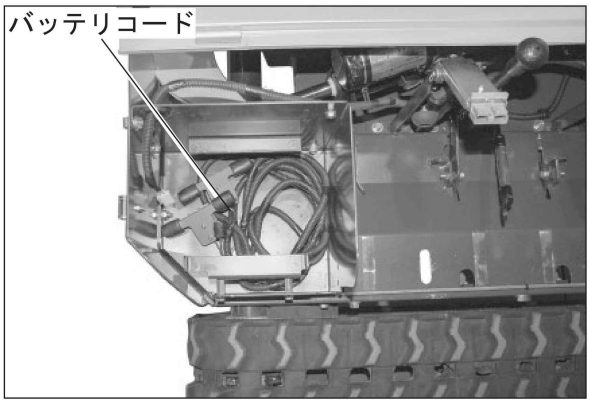
●必ず外れていることを確認してからバッテリを取り出してください。接続したまま取り出すと接触部分が破損し、故障の原因となります。

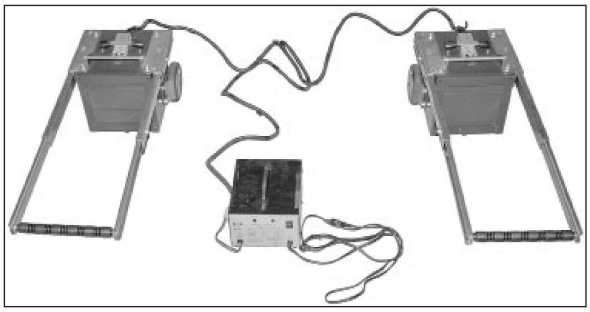
③２つのバッテリを取り出します。

④本機と充電器を繋いでいるコードを外し、充電器を取り出します。

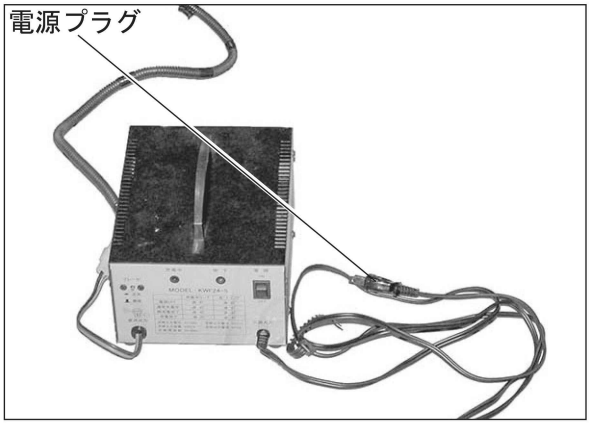


⑤バッテリコードを取り出して、２つのバッテリと充電器を繋げます。

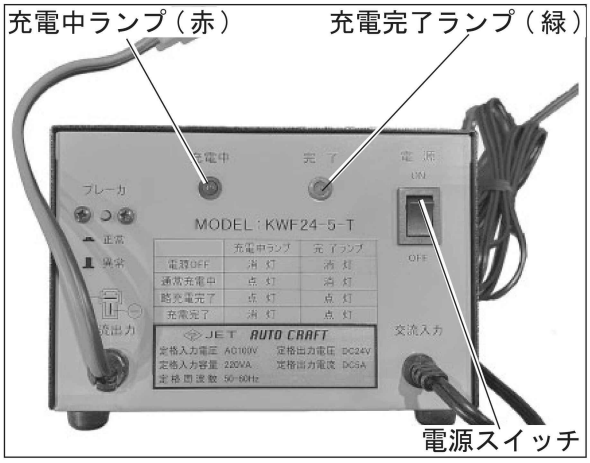




⑥電源プラグを、家庭用ＡＣ１００Ｖコンセントに差込みます。



⑦充電器の電源スイッチを「ＯＮ」にします。このとき充電中ランプ（赤）が点灯することを確認してください。



※充電器の電源を「ＯＮ」にしても、充電器が作動しない場合、故障が考えられますので、３６ページ（充電器の復帰のしかた）を参照してください。

⑧満充電が近づくと充電完了ランプ（緑）が点灯します。充電が完了すると充電中ランプ（赤）が消灯し、充電を停止します。

《充電中の表示状態》

①　充電中　　赤●（点灯）　緑○（消灯）
（充電を開始します。）
↓
②　略充電中　　赤●（点灯）　緑●（点灯）
（80%の充電状態です。）
↓
③　満充電完了　赤○（消灯）　緑●（点灯）
（充電を停止します。）

※バッテリの放電量が多いと、充電器が発熱して充電が停止する場合があります。充電器の温度が下がると充電を再開します。

⑨電源スイッチを「ＯＦＦ」にし、充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。
※充電器とバッテリを取外して充電していた場合は、充電器とバッテリコードを元の場所に戻し、２個のバッテリを元の状態に戻して下さい。

⑩左サイドカバーを閉めてください。

［重要］

●バッテリは自然放電をします。長期間使用しない場合でも、１ヶ月に一度は充電してください。

●充電が完了するまで電源プラグを抜かないでください。充電中に緊急で使用する場合は、使用後に必ず満充電にしてください。

●他の充電器を使用しないでください。

●１００Ｖ以外の電源を接続すると充電器が破損することがあります。

●充電は、気温が５℃～４０℃の場所で行ってください。気温が５℃以下では満充電にならないことがあります。

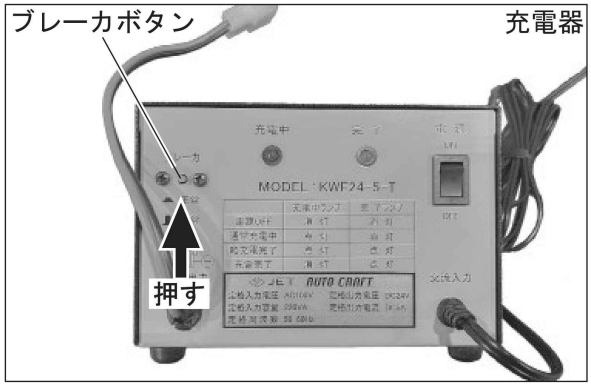
●直射日光や雨・露の影響を受けない、風通しの良い湿気の少ない場所で充電してください。

●電源プラグは、充電以外は必ず収納し、サイドカバーのふたを閉めてください。充電コードの断線の原因になります。

充電器の復帰のしかた

※充電器の電源を「ＯＮ」にしても、充電器が作動しない場合、次の要領で復帰させてください。

充電器のブレーカボタンがパネルの絵の異常のように飛び出していますので、ボタンを押して正常にし、充電をしてください。



※ブレーカボタンを押しても充電器が復帰しない場合、修理が必要になります。お買上げいただいた販売店・ＪＡへご相談ください。

３．発進・旋回・速度調整・停止のしかた

⚠危険

●発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

●急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

●後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

●製品を利用して夜間作業は、しないでください。視界がきかず、バランスを崩し転落、転倒などの事故により、けがをするおそれがあります。

●製品から離れるときには、ブームを一杯下げてから離れてください。何らかの原因でブームが落下し、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

●発進するときは、各レバー・スイッチの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。守らないと思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

●製品を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所にキーを保管してください。守らないと児童などが操作し事故をおこすおそれがあります。

●急な下り坂では、走行速度を落とし、適切な速度で運転してください。また、旋回操作をしないでください。思わぬ方向に製品が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

●本製品は、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

●機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。特に操向レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●製品から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず操向レバーを「停止」位置にし、必ずキースイッチを「切」位置にし、車止めをしてください。守らないと製品が動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

⚠危険

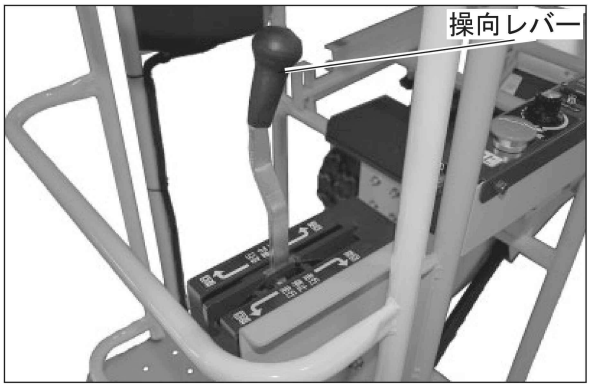
●歩行運転で後進する場合、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認してください。障害物と本製品との間にはさまれてけがをするおそれがあります。

⚠警告

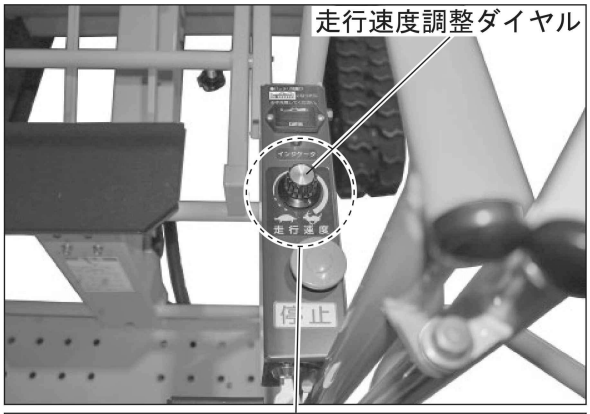
●急坂道やあゆみ板の上では、低い速度で走行し、途中での速度調整はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

●後進する場合、走行速度調整ダイヤルを低速側にし、十分注意し、ゆっくり走行してください。

①操向レバーが「停止」位置にあることを確認します。



②走行速度調整ダイヤルを低速位置にします。

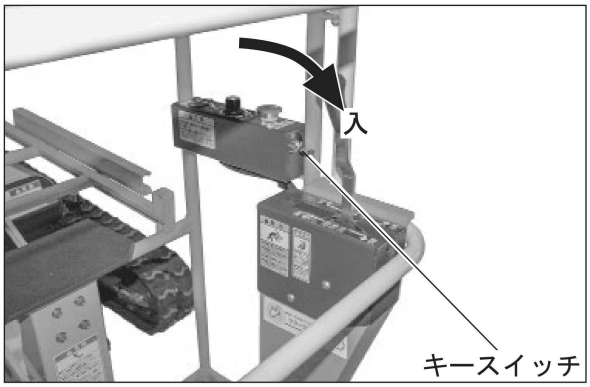




[重要]

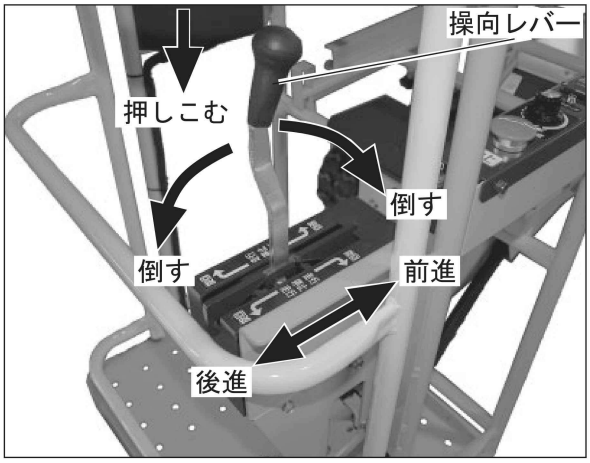
●速度調整は実線の範囲で行って下さい。破線の範囲で操作すると、走行音を発しますが本機は動きません。

③キースイッチを「入」位置にします。



※電源を入れると音が鳴ります。

④操向レバーを押し込んで走行したい方向へレバーを倒すと発進します。



※操向レバーを倒すと、「ピー、ピー」と走行音が鳴りはじめます。「停止」位置にすると音が止まります。

⑤走行速度調整ダイヤルを適切な速度に調整してください。

※走行中にミッション・モータから異音がする場合は直ちに運転を中止し、販売店・ＪＡに相談してください。

［重要］

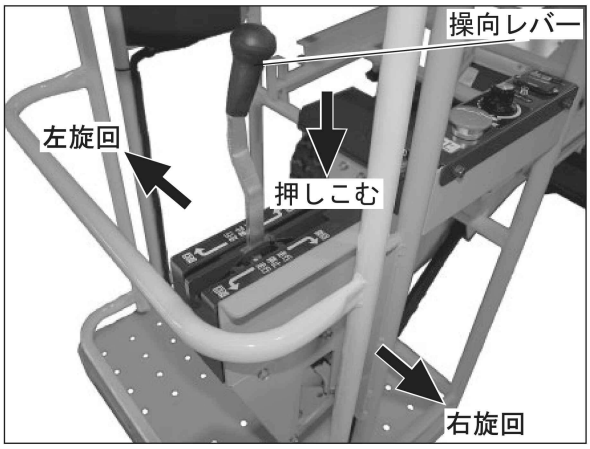
●走行速度調整ダイヤルは低速側から徐々に回してゆっくり発進してください。高速側からの発進は急発進をして大変危険です。必ず、操向レバーを握ってから希望の速度にゆっくり回してください。

※坂道やぬかるみなどを走行中、回路内に大きな電流が流れた場合、サーキットブレーカが作動して走行を停止することがあります。その場合、しばらくすると（約１０分程度）自動的に復帰します。

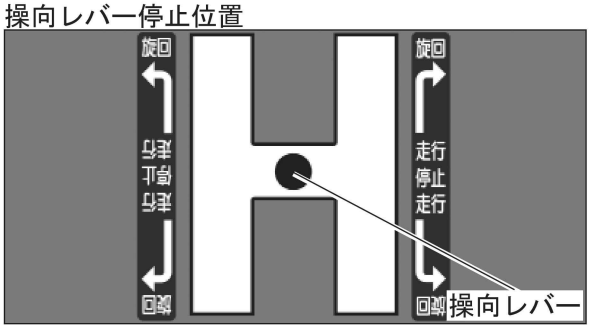
旋回のしかた

安全を確認してから、操向レバーを押しこみながら、旋回したい方へ操作してください。旋回後は、操向レバーを戻します。

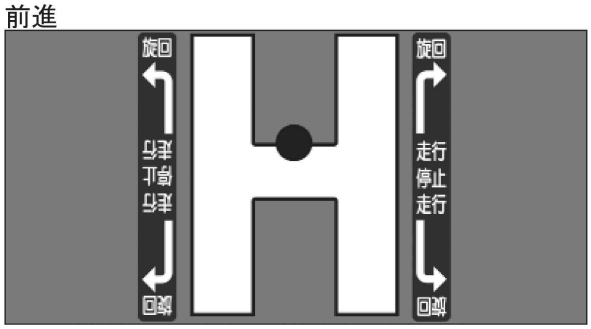
※操向レバーを倒すと、「ピー、ピー」と走行音が鳴りはじめます。「停止」位置にすると音が止まります。



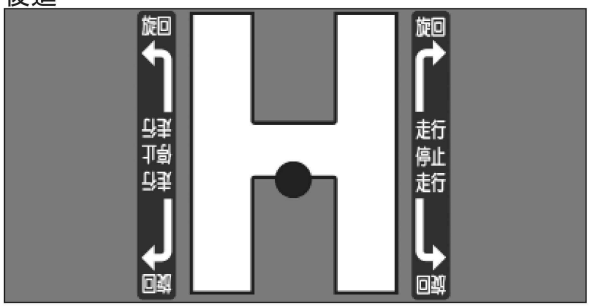
操向レバー停止位置



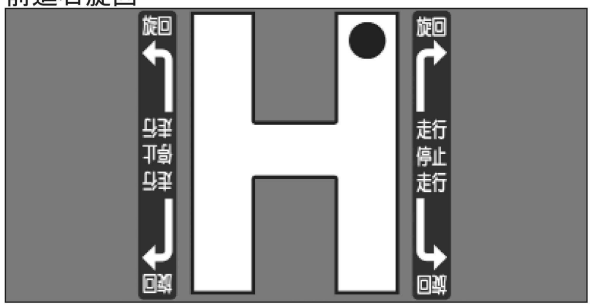
前進



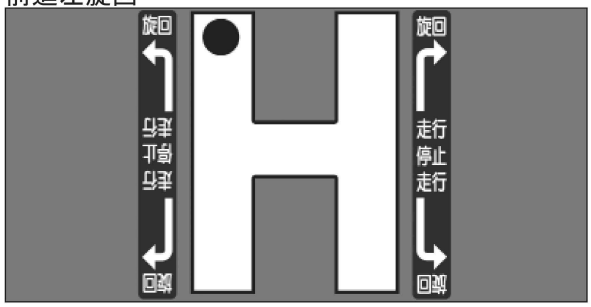
後進



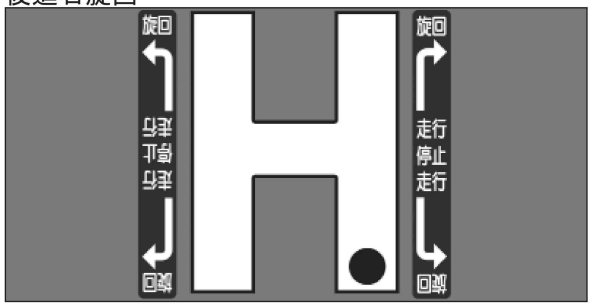
前進右旋回



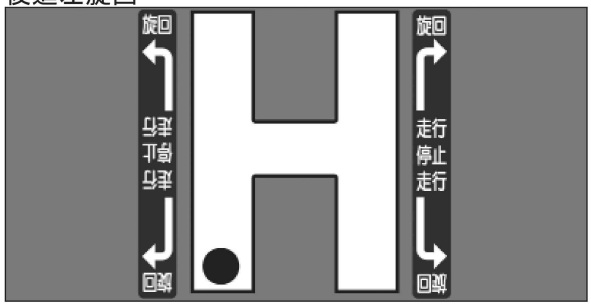
前進左旋回



後進右旋回



後進左旋回



速度調整のしかた

⚠危険

●後進する場合、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認してください。障害物と製品との間にはさまれてけがをするおそれがあります。

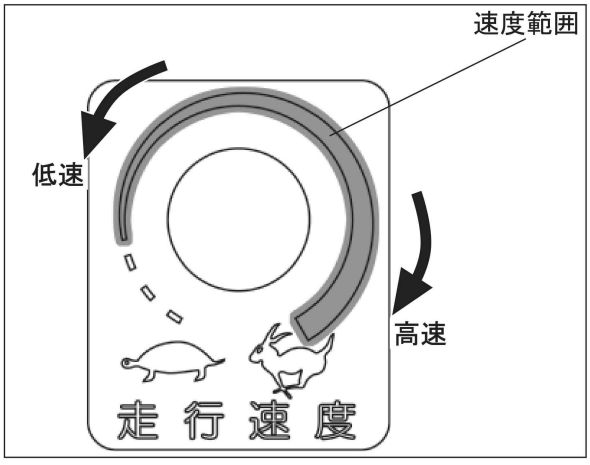
⚠警告

●急坂道やあゆみ板の上では、低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

●後進する場合、走行速度調整ダイヤルを低速側にし、急発進しないよう十分注意し、ゆっくり発進してください。

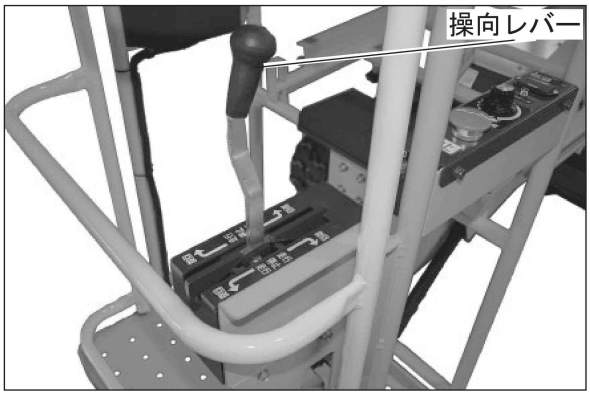
速度調整する場合は、次の要領で行ってください。

下記の■色に示す速度範囲内で走行速度調整ダイヤルを回して調整します。



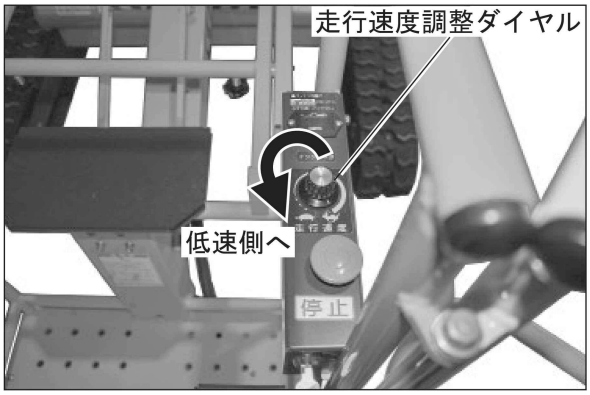
停止のしかた

①操向レバーを「停止」位置にします。

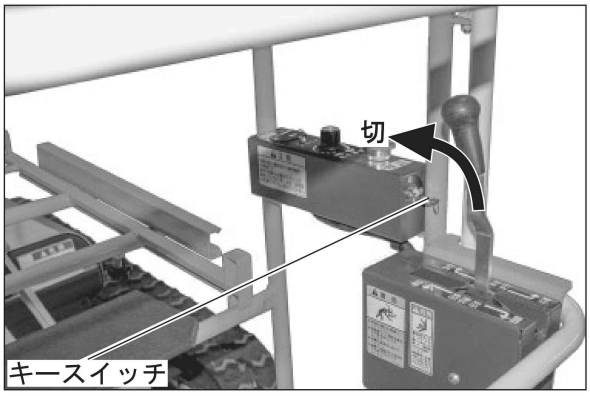


※操向レバーを「停止」位置にすると、機体は止まり駐車ブレーキが掛かります。

②走行速度調整ダイヤルを低速位置にします。



③キースイッチを「切」位置にします。



[重要]

※運搬作業や収穫作業終了後は、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。バッテリが放電します。

※ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキ部から異音がでたりする場合は、お近くの販売店・ＪＡに相談してください。

駐車のしかた

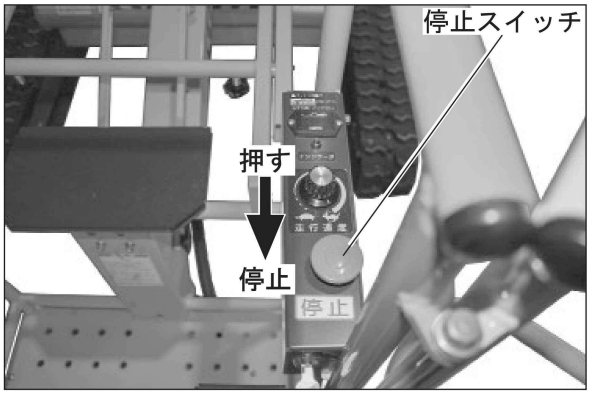
⚠注意

●駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず操向レバーを「停止」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

停止スイッチの使いかた

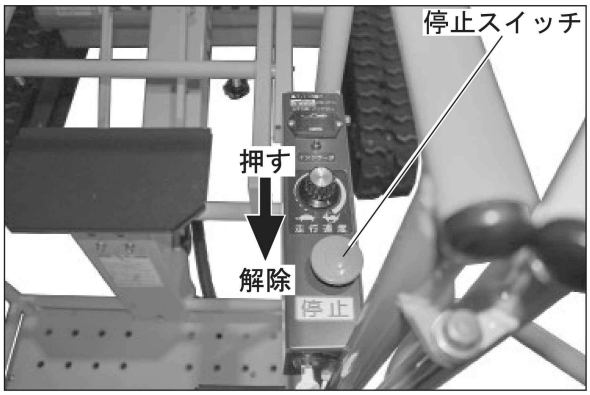
緊急停止のしかた

緊急に機体を停止させたい場合は、停止スイッチを押すと電流が遮断され停止します。



解除のしかた

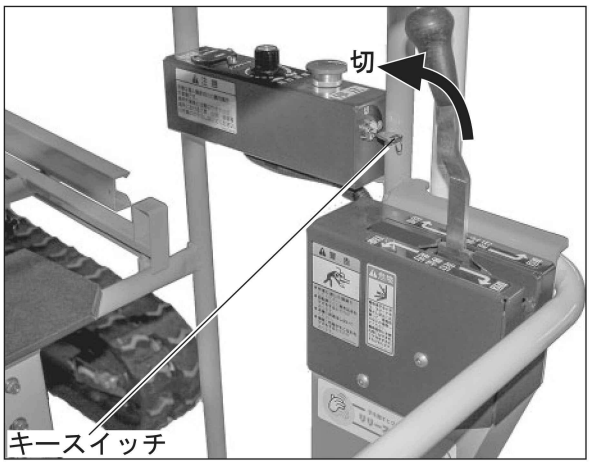
もう一度停止スイッチを押すと解除されます。



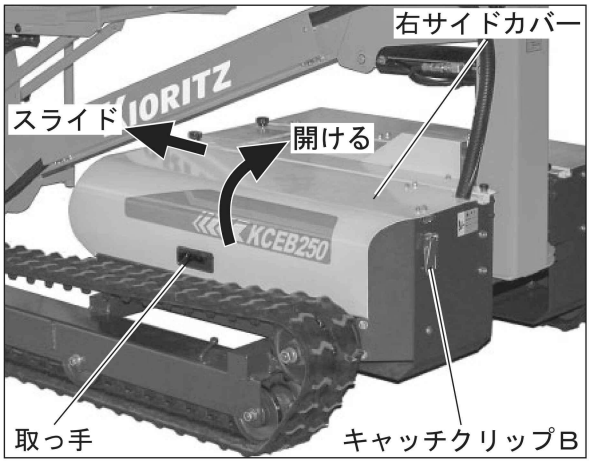
故障やバッテリがあがった場合

故障やバッテリがあがったときなど走行できなくなった場合、次の要領で本製品を動かしてください。

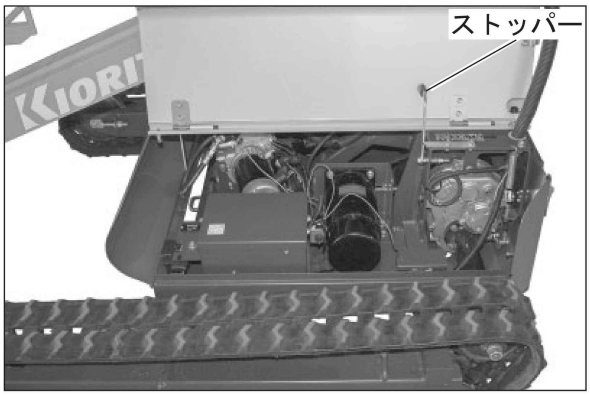
①キースイッチを「切」位置にします。



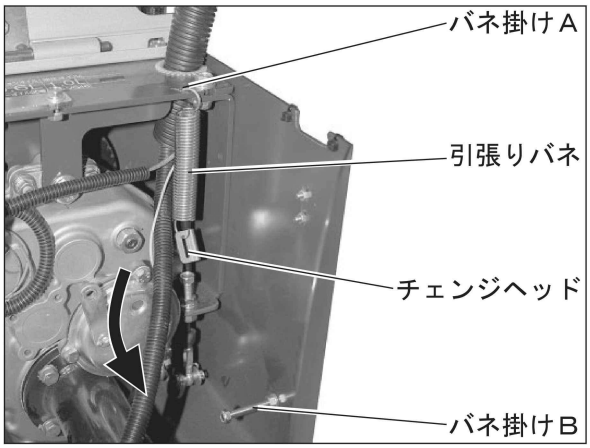
②前面のキャッチクリップＢを外し、カバーを後方にスライドさせて、右の取っ手を持ち上げると右のサイドカバーが開きます。

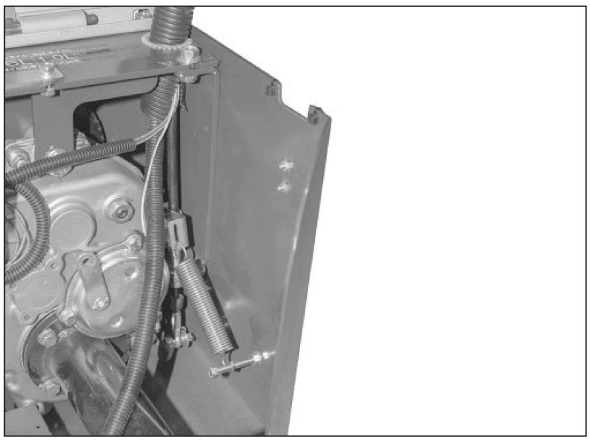


③ストッパーを付けてカバーが落ちないようにします。

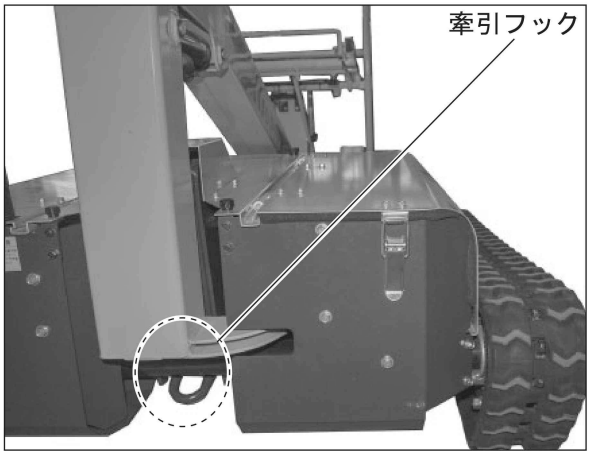


④バネ掛けＡとチェンジヘッドを繋いでいる引張りバネを外し、バネ掛けＢに繋ぎ変えます。





⑤牽引フックにロープを掛け本製品を動かしてください。



⑥移動後は、引張りバネを元通りに確実に取付けてください。

[重要]

- **緊急時以外は、引張りバネをバネ掛けＡから外さないでください。ブレーキが効きません。特に傾斜地では、引張りバネを絶対にバネ掛けＡから外さないでください。本機が暴走し事故をおこすおそれがあります。**

４．作業のしかた

⚠危険

●作業台の開閉ゲートは確実にロックしてください。開閉ゲートが勝手に開いて転落事故をおこすおそれがあります。

●積載物はコンテナ台からはみ出さないようにしてください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●最大作業能力（作業者の体重と積載物含む）以上は荷物を積まないでください。製品が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

●傾斜地での使用限度角度は５度以内にし、谷側にブームを振らないでください。守らないと、転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

⚠警告

●積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができません。積荷は高く積まないでください。また積荷はかたよった積み方をしないでバランスよく積んでください。荷崩れをおこし、転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●坂道では積荷の重量を軽くして、安全に走行してください。

●坂道では荷物の積込み、積降しはしないでください。製品の前後バランスが崩れたり、荷崩れをおこし、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

●ブームを水平にすると、製品のバランスが崩れやくすなりますので、注意してください。転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

●コンテナ台には人を乗せたり、乗って運転をしての移動走行しないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

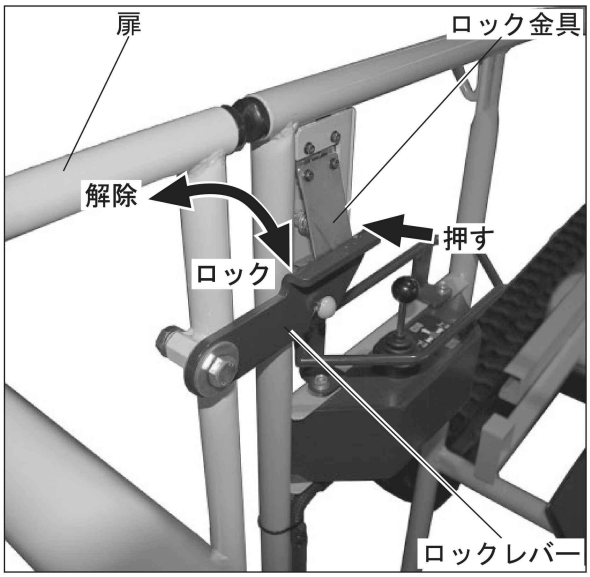
●作業中、木や枝などにはさまれないように注意してください。

扉の開けかた

⚠危険

●確実にロックレバーをロック金具で固定してください。守らないと、何らかの原因で扉が開き、転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

扉のロック金具を押し、ロックレバーを持上げて扉を開きます。扉を閉めるときはロックレバーを元の位置に戻して、ロック金具で確実にロックレバーを固定してください。



リフト操作のしかた

⚠危険

●傾斜地での使用限度角度は５度以内で使用してください。守らないと、転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

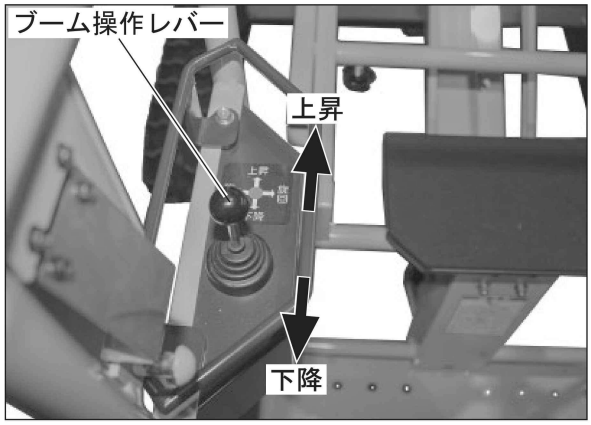
●リフトしたままでの走行はしないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

⚠警告

●作業台をリフトした状態のときに故障したり、バッテリの容量不足になり機械が停止した場合、本製品から飛び降りないでください。近くにいる人を呼び助けを求めてください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●作業台への乗降は、必ず作業台を一番下に下げてから行ってください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

作業台を上げたいときは、ブーム操作レバーを「上昇」の方に、下げたいときは、「下降」の方に操作してください。



［重要］

●リフト操作をするときは、停止して行ってください。走行中のリフト操作はしないでください。

●一定の高さまでブームが上昇すると、自動的に走行速度が低速になります。

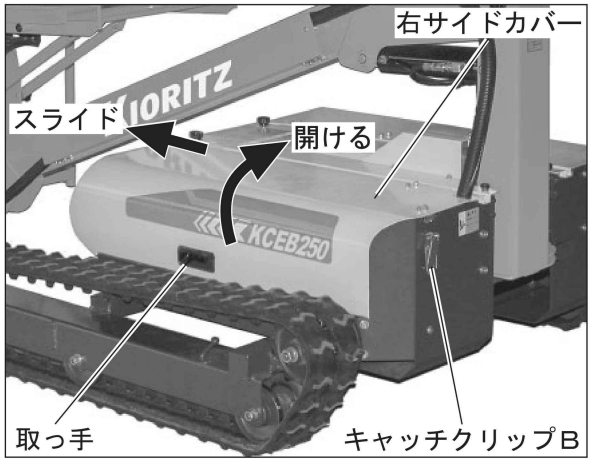


※昇降の上端では、油圧回路の安全弁が作動する音がしますが、異常ではありません。昇降が停止したら荷台上昇・下降スイッチの操作は止めてください。また、荷台昇降用シリンダーの安全弁を長時間作動させると故障の原因になりますので、過度の操作や、無理な操作は避けてください。上昇・下降の途中で異音がしたら、販売店･ＪＡに相談してください。

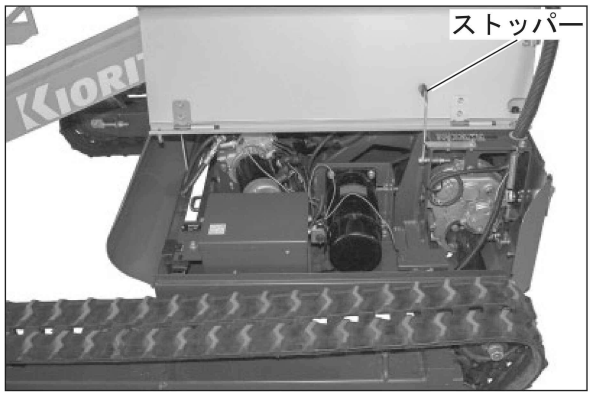
故障やバッテリがあがった場合

作業台をリフトした状態のときに、故障したり、バッテリの容量不足になり機械が停止した場合、近くにいる人を呼び助けを求めて、下記の操作をしてリフトを降ろしてもらうようにしてください。

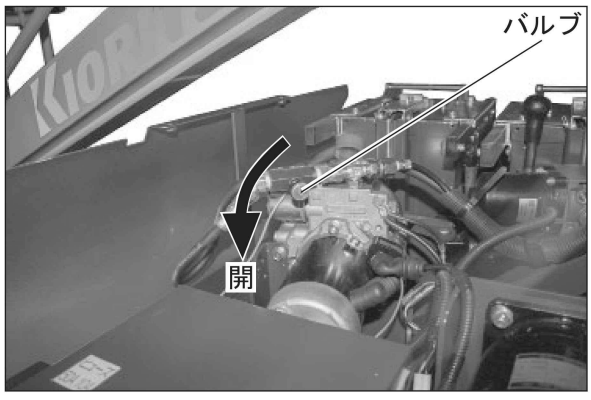
①前面のキャッチクリップＢを外し、カバーを後方にスライドさせて、右の取っ手を持ち上げると右のサイドカバーが開きます。



②ストッパーを付けてカバーが落ちないようにします。



③バルブをゆっくり開けてブームを降ろします。

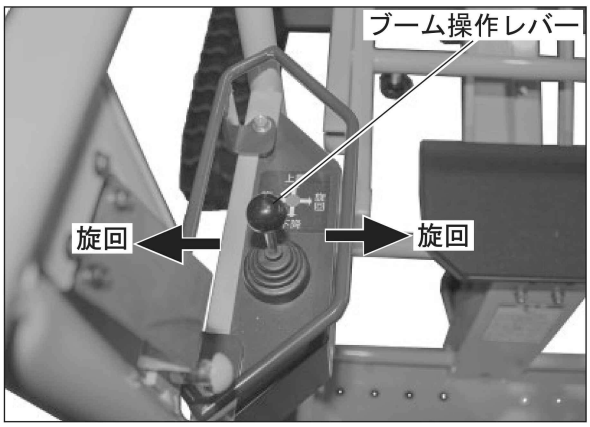


［重要］

●バルブを開けるときは、リフトの降下状況を見ながらゆっくり回してください。急激に開けるとリフトが急降下して事故をおこすおそれがあります。

スイング操作のしかた

作業台をスイングしたいときは、ブーム操作レバーを旋回したい方向へ操作してください。



※作業台の最大作業能力は 100 kg（作業者の体重と積載物含む）です。それ以上の積載はしないでください。

５．坂道での運転のしかた

⚠警告

●坂道ではあらかじめ適正な速度を選択し、坂道を走行中は、速度調整をしないでください。坂を登りつめてから、希望する速度に調整してください。

●坂道では駐車をしないでください。守らないと製品が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

●坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂では走行速度調整ダイヤルを低速側にしてください。

●上り坂で発進する場合は、走行速度調整ダイヤルを低速にしてゆっくり発進してください。急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。

６．樹園への出入りのしかた

⚠警告

●樹園への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷物は積まないで、重心を低くしてください。

●急な傾斜は歩行運転で、登る場合は「前進」、下る場合は「後進」の低い速度でゆっくり行ってください。

[重要]

●樹園への出入りは、樹園にたいして直角に出入りしてください。

７．トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠警告

●積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、「車止め」をしてください。

●使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。

●ブームを下げて、荷物は積まないでください。

●製品に乗っての運転は厳禁です。

●誘導者は、製品の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための操向レバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

●積込みは「前進」、積降しは「後進」の低い速度で走行速度調整ダイヤルは「低速側」にし、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●製品があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。守らないと、製品の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

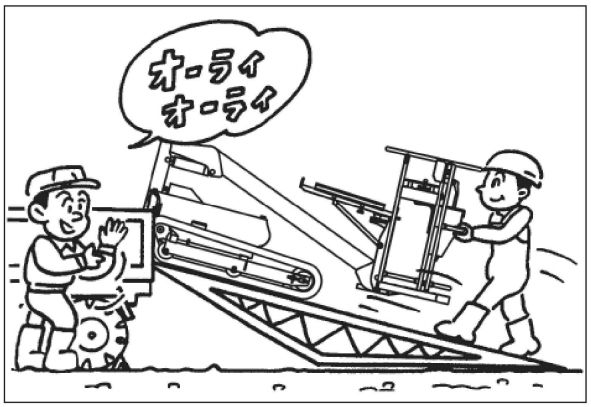
《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。
●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上
●幅……製品のクローラ幅の 1.5 倍以上
●強度…製品の総重量に十分耐えられるもの
（1 本当たり）
●表面…スベリ止めのあるもの
●形状…固定フックのあるもの

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④左右のクローラがあゆみ板の中央に位置するように、製品をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤積込みの場合は「前進」で、積降しの場合は「後進」の低い速度で行ってください。



5章 作業後の手入れについて

⚠危険

●シートを掛ける場合は、モーターやその周りのカバーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●お手入れは、平坦な安定した場所で、キースイッチを「切」位置にしてから行ってください。守らないと製品が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

●格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず「車止め」をしてください。製品が自然に動いて事故になります。

⚠注意

●お手入れは、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

●電装部品に高圧洗浄は行わないでください。水洗いを行う必要がある場合は、必ずキースイッチを「切 」位置にし、充電器を本機から外してから行ってください。また、水洗後の乾燥を十分に行ってから外した充電器を取付け、電源を入れてください。守らないと、電装品の故障・誤作動・動作不良などの原因になるおそれがあります。

1. 作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

[重要]

●雨天時の使用や、本機を洗浄するときには、必ず充電器を本機から外してください。カバー内に侵入した水により故障するおそれがあります。

２．長期間使用しない場合の手入れ

⚠危険

●バッテリ充電中は、発熱しますので風通しの良い場所で行ってください。

⚠注意

●格納する場合は、キースイッチを「切」位置にし、キーは抜取って、屋内に格納してください。

［重要］

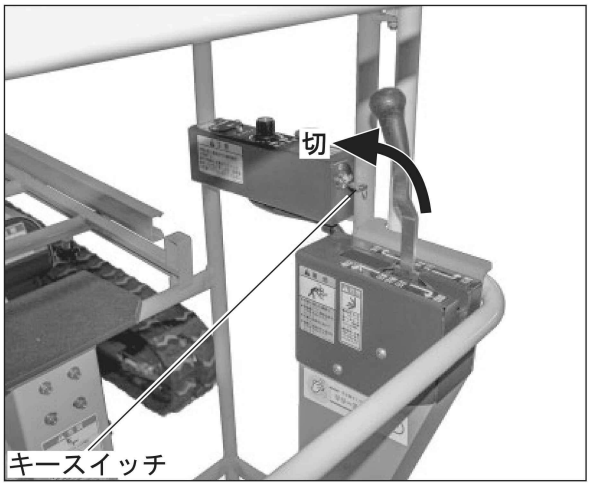
●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、お住まいの自治体の指導に従ってください。

①クローラに付着した泥や異物などは取除き、クローラの下には板を敷いてから格納してください。

②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

③乾燥した風通しの良い所で、ブームは、降ろした状態にしてください。

④キースイッチは「切」位置にし、キーは抜取り保管してください。



⑤バッテリは完全充電してください。

［重要］

●バッテリは使わなくても自然放電します。１ヶ月に１度は充電器で完全充電してください。
（34 ページ参照）

●寒冷時に凍結して発進不能となった場合は、凍結箇所を水、または湯などで溶かすか、自然に溶けるまで待って操作をしてください。

●本製品は屋外に放置しないでください。電気部品の故障の原因になります。

⚠危険

●ブームを上げて点検、整備をするときは、キースイッチを「切」位置にし、支え棒などでブームを固定してから行ってください。何らかの原因で荷台が落下し、傷害事故をおこすことがあります。

⚠警告

●点検、整備は交通の危険がなく、製品が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

●１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や製品の故障をまねくおそれがあります。

●点検、整備、修理をするときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。

●部品の交換、および草・わらくずなどのゴミを取るときは、高温部が十分冷えてから行ってください。

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期に製品の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。製品の整備不良による事故を未然に防止するために、１年毎にお買上げいただいた販売店・ＪＡで定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。電気配線は毎年点検するようにして、常に製品を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

サイドカバーの開け方

点検、整備を行うとき、本機の左サイドカバーを開ける場合は３３ページ「左サイドカバーの開け方」を、右サイドカバーを開けるときは、４１ページ「故障やバッテリがあがった場合」の①②を参照してください。

1. 定期点検一覧表

（☆初期点検・調整　★初期交換　○点検・調整　●交換）

点検・調整箇所		使用する油の種類と規定量	項目	点検・交換時期（目安）					参照ページ
				作業前	ｼｰｽﾞﾝ初め	50h 毎	100h 毎	１年	
電装品	インジケータ		点灯するか確認	○	○				３３
	バッテリゲージ		点灯するか確認	○	○				３３
	充電機		充電時の動作確認		○				３５
	電気配線		配線の断線、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか確認	○	○			○	５４
	ヒューズ		ヒューズ切れがないか確認	○	○				５４
	バッテリ		亀裂、変形、液漏れがないか確認	○					５５
本体部	走行ミッションオイル	０．６L	ギヤオイル 90 番交換		○	★	●		５３
	油圧オイル	１．５L	油圧作動油 ･･･ISO ＶＧ ４６ 補給	○					５３
	昇降部のブーム・平行リンク		変形・損傷がないか確認	○					５６
	引張りバネ		変形・損傷がないか確認	○					４１
	クローラ	１０～１５㎜	たわみ量の調整、亀裂・損傷がないか確認	○					５７
	操向レバー		停止位置に確実に戻るか確認	○	○				４０
			進行方向の切替えができるか、異音がないか確認	○	○				３７
			旋回できるか確認	○	○				５８
	ブーム操作レバー（ジョイステック）		上昇・下降・旋回の動作確認、シリンダーに異音がないか確認	○	○				４３
	停止スイッチ		動作確認	○	○				４０
	走行速度調整ダイヤル		動作確認	○	○				３９
	昇降部のボルト・ナット		増締め	○					５９
	トラックローラ取付ボルト		増締め	○					５９
	フレーム		腐食、破損がないか確認	○					－

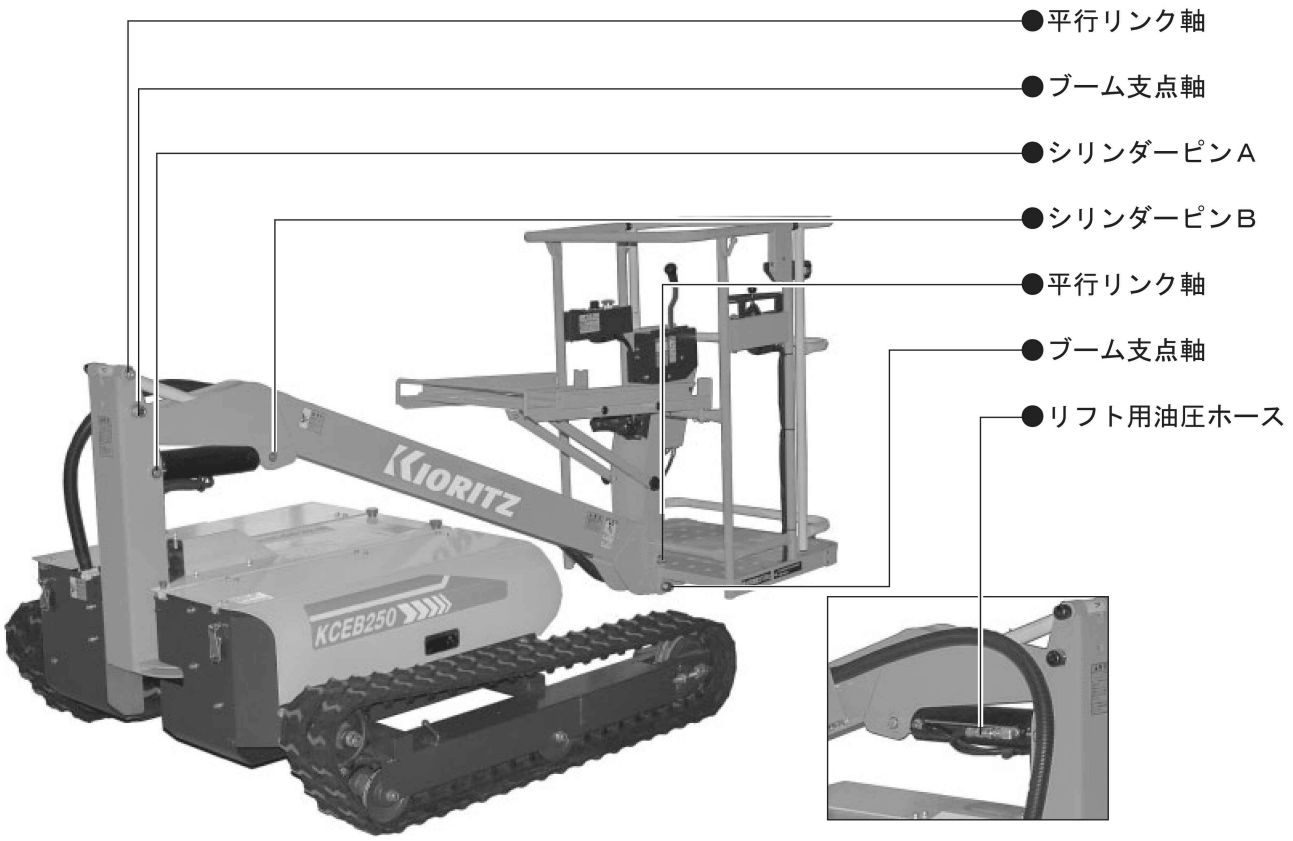
２．定期交換部品

製品を安全に、長時間使用していただくために、定期的な点検、整備を必ず実施してください。（Ｐ５０参照）

●安全性をより高めるために、特に安全面に関係の深い下記部品について、定期的にアワメータで時間を確認したうえで交換してください。これらの部品は経時的に材質が変化したり、繰返し使用されることにより、劣化、摩耗、疲労をおこします。これが原因で重大な人的および物的災害が発生するおそれがあります。しかも運転感覚や外観検査ではこれらの部品の残存寿命を判定するのが難しい部品です。また、交換時期以前でも定期的な点検、整備で異常が認められた場合には同様に交換してください。部品の交換は、お買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

定期交換部品

部品名	部品番号	交換時期	参照ページ
シリンダーピンＡ	１Ｅ１１８３－６８１９０	3000 時間（または３年）	５７
シリンダーピンＢ	１Ｅ１１８３－６８２００	3000 時間（または３年）	５７
ブーム支点軸 （ストリッパーボルト MBS20）	１Ｅ１１８３－６８２８０	4000 時間（または４年）	５６
平行リンク軸 （ストリッパーボルト MBS16）	１Ｅ１１８３－６８２７０	4000 時間（または４年）	５６
リフト用油圧ホース	１Ｅ１２６１－６１０６０	4000 時間（または４年）	５３



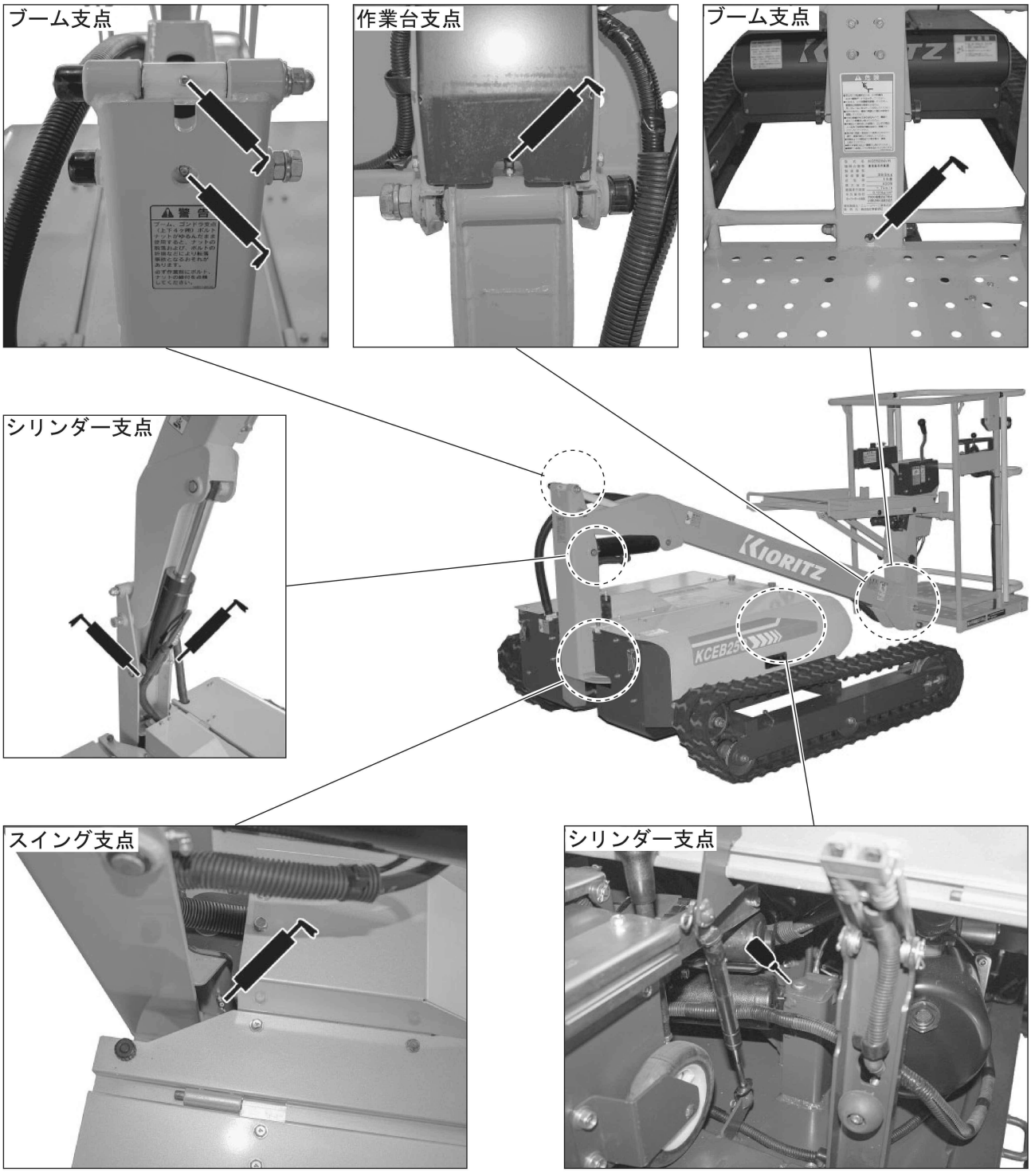
３．各部の注油・グリスアップのしかた

⚠注意

●記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。

●定期的にグリスポンプで確実にグリスアップをしてください。

〈凡例〉 注油箇所　グリスアップ位置



４．各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、製品の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

［重要］

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、お住まいの自治体の指導に従ってください。

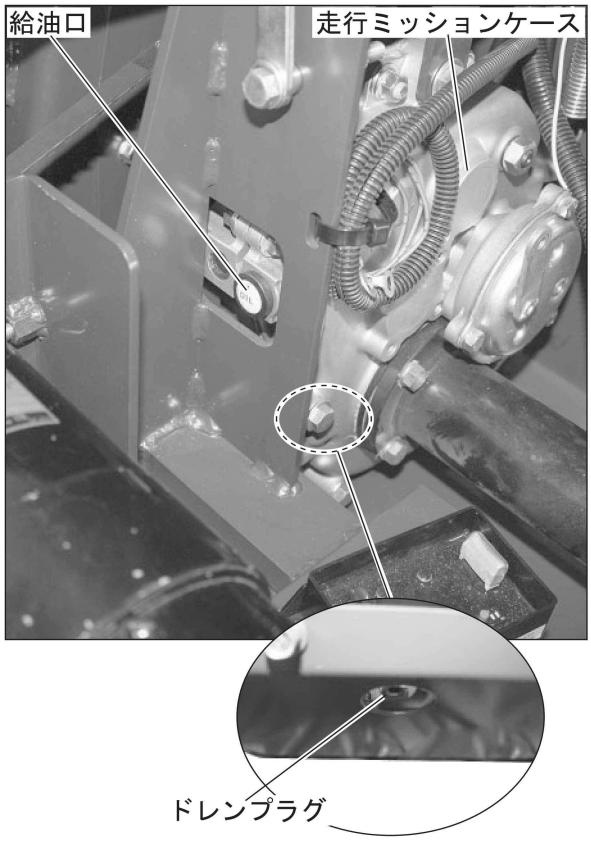
走行ミッションオイル

点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量（0.6L）入れてください。



［重要］

●廃油受け皿に排出したオイル内に鉄粉などが混入している場合は、ギヤの磨耗などミッションの破損の前兆であり、走行ミッションの分解チェックを要します。お買上げいただいた販売店、ＪＡにご相談ください。

●オイルの量はキースイッチを「切」位置にして調べてください。

●給油するときは、製品を必ず水平にして行ってください。

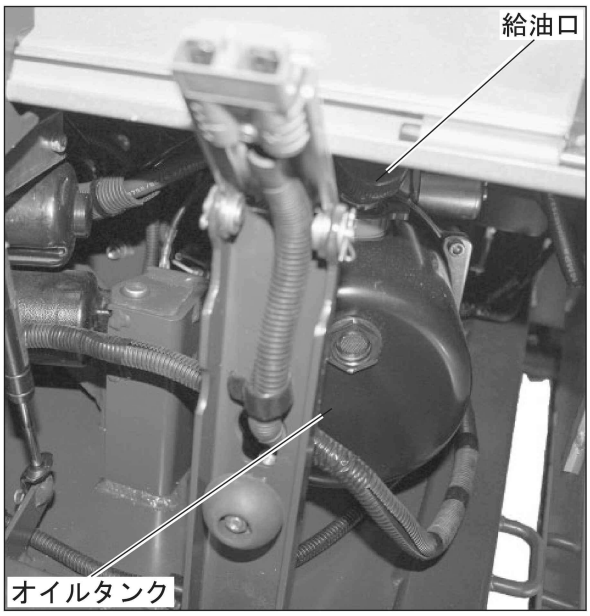
●給油をするオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。

●オイルの点検・交換作業後はドレンプラグを確実に締付けてください。

油圧オイル

点検

油もれのないことを確認してください。



交換

油圧パッケージのオイルタンクを外し、汚れたオイルを流し出します。給油は規定量（1.5L）入れてください。交換については、お買上げいただいた販売店、またはＪＡにご依頼ください。

［重要］

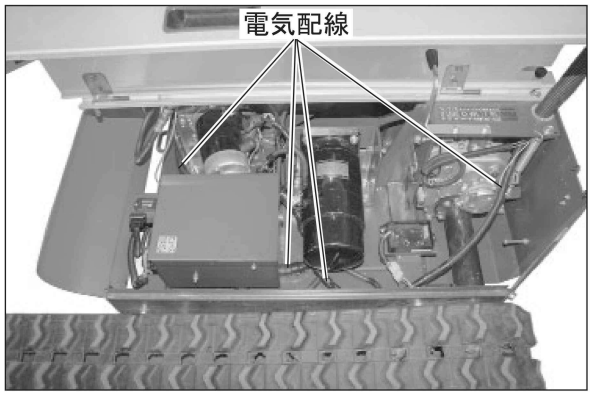
●油もれなどしているときは、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検、整備を受けてください。

５．電気配線の点検のしかた

⚠注意

●配線コードに付着しているわらくずやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

接続部の締付けバンドのゆるみがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。電気配線コードが傷んでいる場合は、お買上げいただい販売店・ＪＡで修理してください。
電気配線は１年毎に定期点検を受けてください。

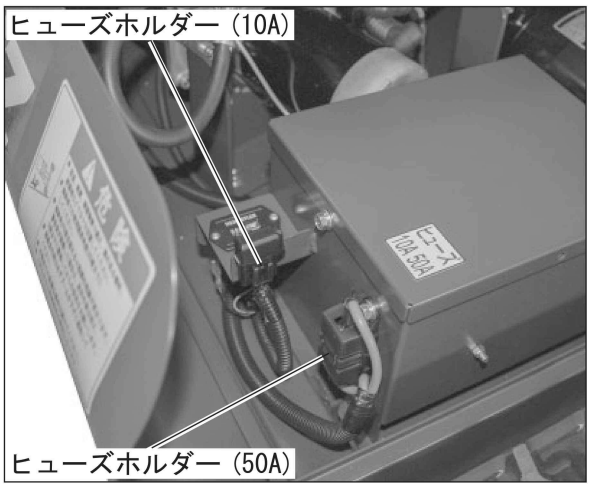


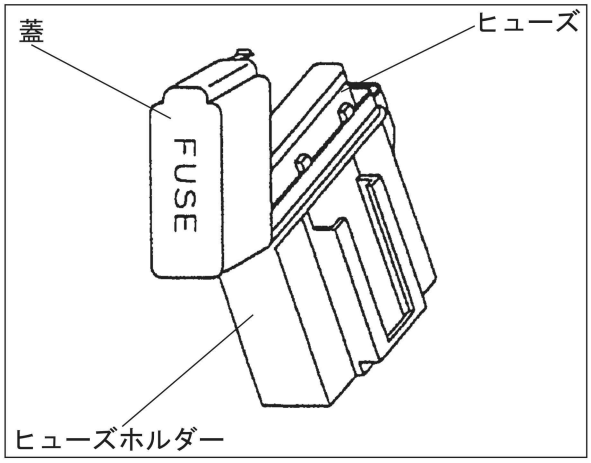
６．ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

①右サイドカバーを開きます。

②本機後側に 50 Ａと 10 Ａのヒューズホルダーがあります。ヒューズ切れの場合はキースイッチを、「切」位置にしてから、新しいヒューズと交換してください。





［重要］

●ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

●ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買上げいただいた販売店・ＪＡで点検を受けてください。

7．バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

●バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。

●バッテリを分解したり改造したりしないでください。

●バッテリ液が破損して電解液が身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。目に入った場合は、大量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

●バッテリからコードを外すときは、必ず㊀側から外し、取付けるときは、必ず㊉側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

⚠警告

●バッテリの充電は、必ず専用の充電器で充電してください。

●バッテリに、亀裂や変形などの損傷、または液漏れしていないか点検してください。もし、異常があればバッテリを交換してください。

●バッテリは、水でぬらし固く絞った布で清掃してください。シンナーなど有機溶剤やオイルなどで拭かないでください。

⚠注意

●バッテリの充電中は、バッテリと充電器が発熱しますので、換気を行ってください。守らないと火傷を負うおそれがあります。

●長時間使用しない場合は、満充電にし、製品から取外して乾燥した場所に保管し、一ヶ月に一回充電をしてください。

●バッテリは保管中でも、劣化します。性能が保管前に比べて悪くなる場合があります。

●バッテリのカバーなどは、はがさないでください。使用出来なくなります。

●バッテリを完全放電させないでください。使用出来なくなる場合があります。

バッテリの点検のしかた

３４ページ「充電のしかた」を参照して２つのバッテリを取外し、亀裂、変形、液漏れがないか確認します。もし異常があればバッテリを交換してください。



バッテリの交換のしかた

交換についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

※バッテリを交換するときは、必ず２つ同時に交換してください。

格納のしかた

格納時は、日光が当たらない、乾燥した場所に本製品を水平にして保管してください。

[重要]

●本製品を長時間使用しないときは、最低１ケ月に１回は補充電を行ってください。バッテリが長持ちします。

●取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリ端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。

●バッテリを交換するときは、必ず規定のバッテリを使用してください。

●環境保全のため、交換した古いバッテリは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。

８．昇降部の点検のしかた

⚠警告

●昇降部のボルト・ナットがゆるんだまま使用すると、ナットの脱落、およびボルトの折損などにより転落事故となるおそれがあります。

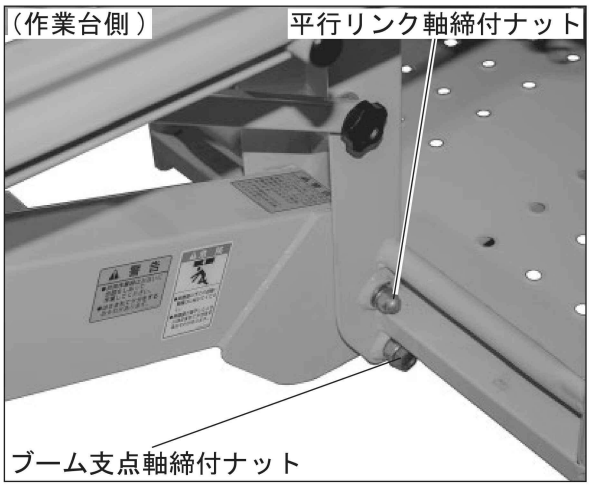
必ず作業前に次のボルト・ナットの締付けを点検してください。

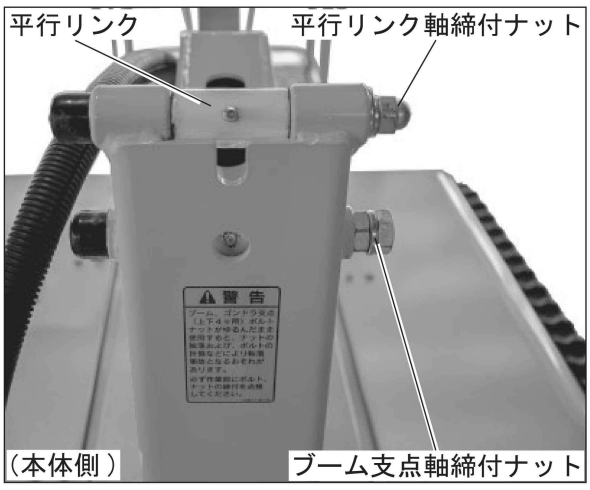
平行リンク軸締付ナット

平行リンク軸締付ナットがゆるんだまま使用すると平行リンク軸が偏摩耗し、平行リンク軸の折損､または脱落する場合があります。その場合、転落事故となりますので、平行リンク軸の取付部の点検、および交換をしてください。交換についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。

ブーム支点軸締付ナット

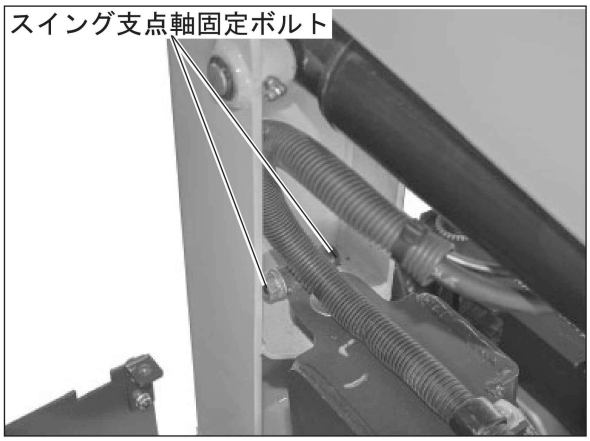
ブーム支点軸締付ナットがゆるんだまま使用すると作業台がぐら付き、不安定な状態になります。ゆるんだ場合は､お買上げいただいた販売店･ＪＡにご相談ください。





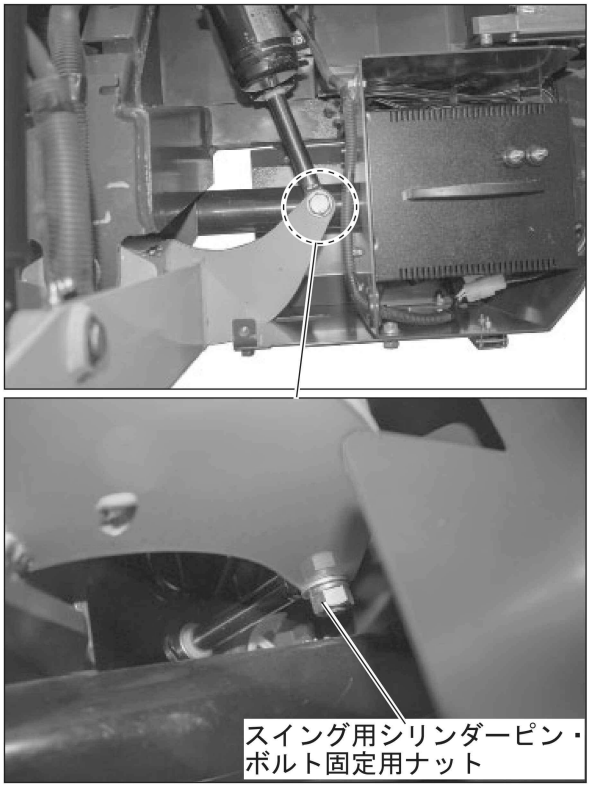
スイング支点軸固定ボルト

スイング支点軸固定ボルトがゆるんだまま使用すると、支点部が破損し、作業台が傾き転落事故となるおそれがあります。



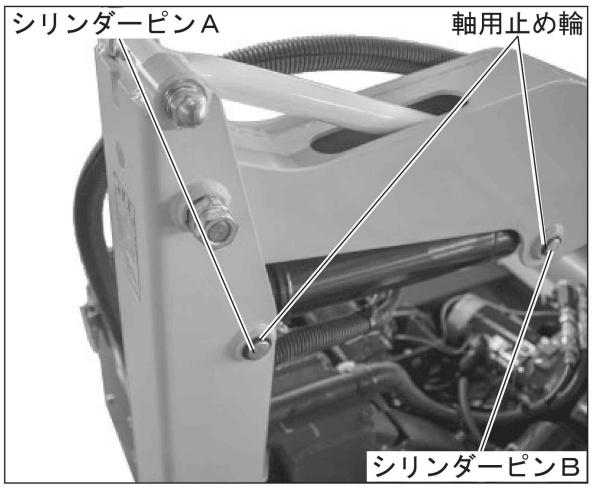
スイング用シリンダーピン・ボルト固定用ナット

スイング用シリンダーピン・ボルト固定用ナットがゆるんだまま使用するとナットの脱落により、取付部の破損、およびピン、またはボルトが脱落し、作業台が思わぬ方向に移動し転落事故となるおそれがあります。



昇降用シリンダーピン

昇降用シリンダーピンの軸用止め輪が外れたまま使用するとピンが脱落し、転落事故となるおそれがあります。



※部品の交換、調整はお買上げいただいた販売店、ＪＡにご依頼ください。

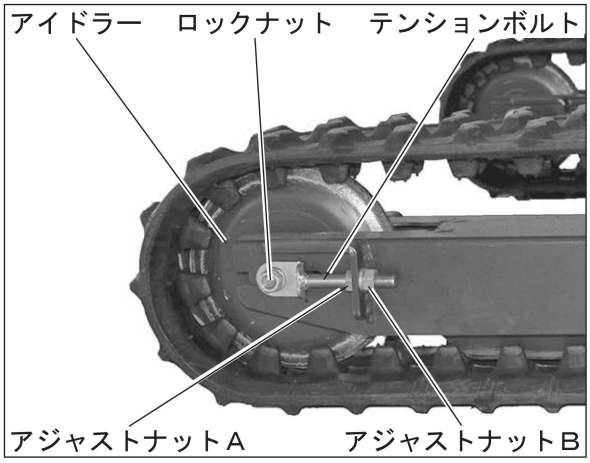
９．クローラの張り調整のしかた

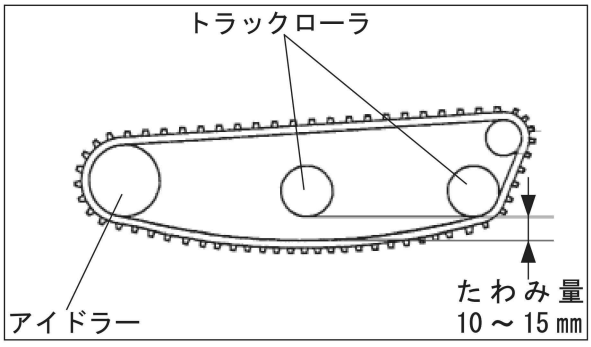
⚠注意

●テンションボルトの締込みは、左右均等に行ってください。調整後は､必ずアジャストナット･ロックナットを締込んでください。守らないと、クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。

①クローラがゆるんだときは、ジャッキなどで機体を持上げてから安全ブロックなどで降下しないように固定します。

②アイドラーの外側と内側のロックナットとアジャストナットＢを緩め、アジャストナットＡでテンションボルトを締込んでクローラを張ります。このときのたわみ量が 10 ～ 15 ㎜程度にしてください。



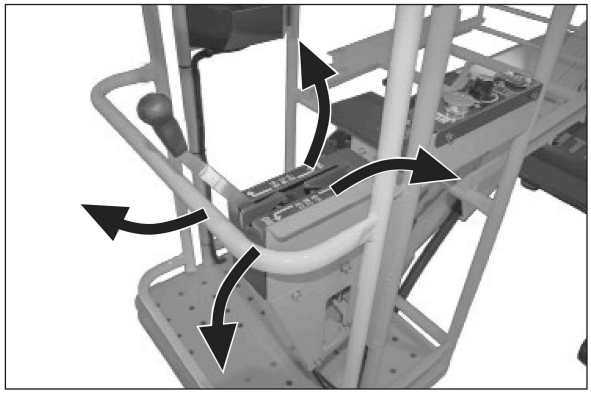


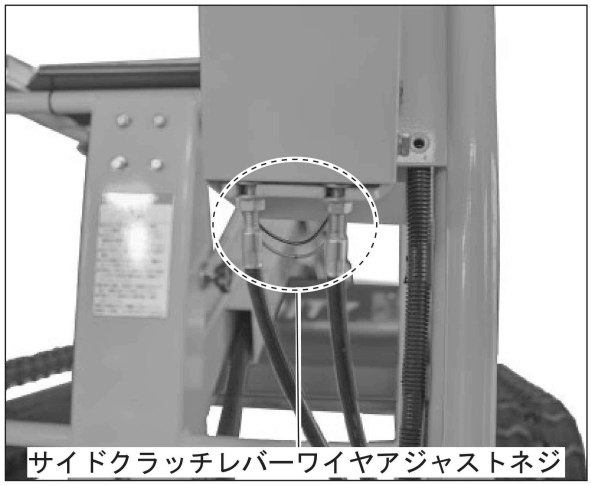
③調整後は、ロックナットとアジャストナットＢを確実に締付けてアイドラーを固定してください。

10. 操向レバーの点検のしかた

旋回

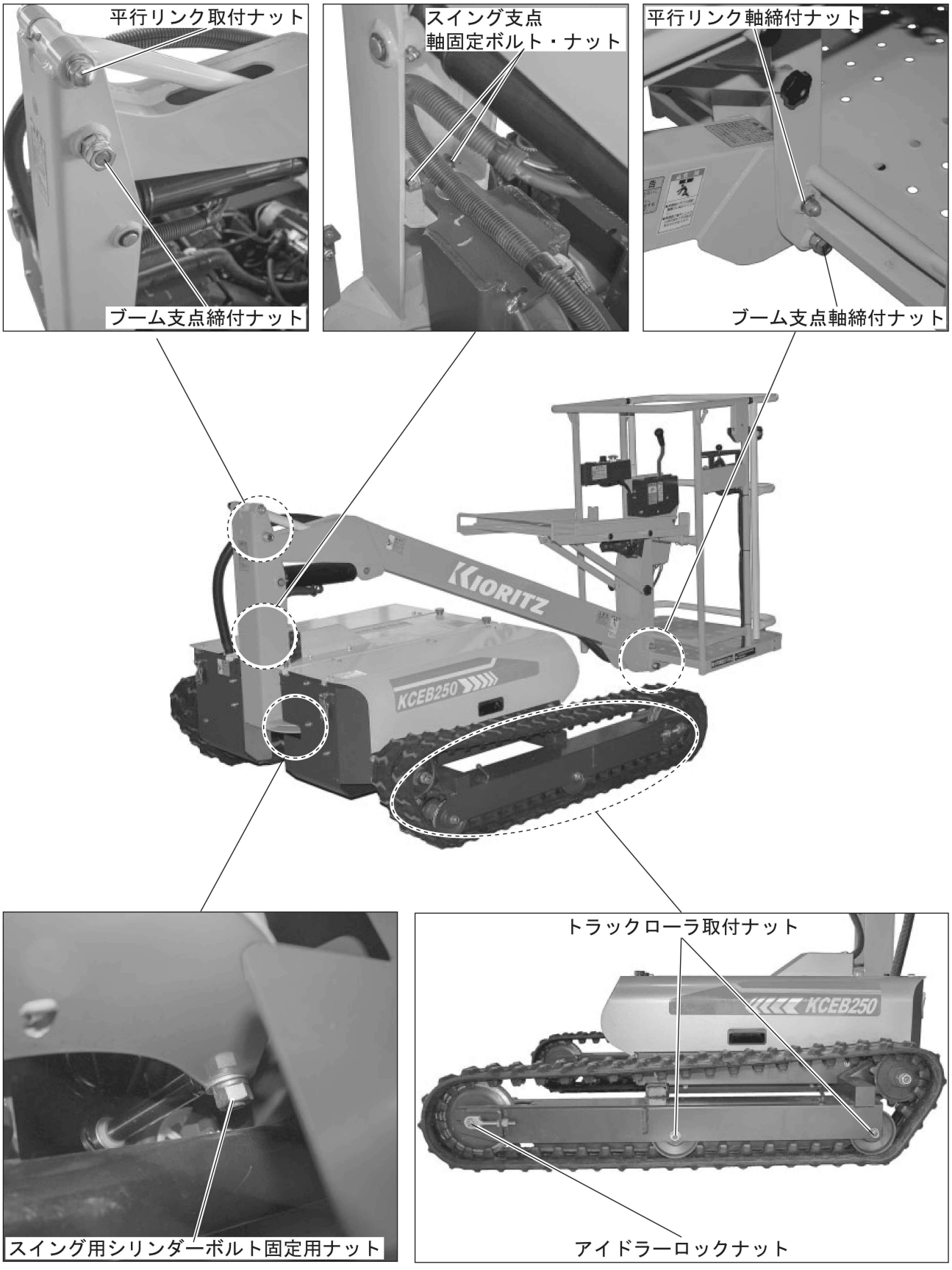
確実に操向レバーが「旋回」ができるか確認してください。もし、不具合がありましたら、サイドクラッチレバーワイヤアジャストネジで調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店・ＪＡにご依頼ください。





サイドクラッチレバーワイヤアジャストネジ

11. 締付けをするところ



※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

7章 不調診断

⚠警告

●製品の調子が悪いときは、必ずキースイッチを「切」位置にし、操向レバーを「停止」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、お買上げいただいた販売店・ＪＡに連絡してください。

1．電源が入らない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
サーキットブレーカが作動していませんか。	切れた原因を取除いて、時間をしばらくおいてから始動してください。	３８
バッテリ電圧が低下していませんか。	バッテリを充電してください。	３４
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５
走行回路のヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	５４
停止スイッチが作動していませんか。	停止スイッチを解除してください。	４０
電気部品が故障していませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	５４
配線が切れたり、接続部がゆるんでいませんか。		
スイング操作を長時間していませんか。	バッテリを充電してしください。	３４

2．各部に振動が多い

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
昇降部がぐらついていませんか。	昇降部のボルト・ナットを強く締付けてください。	５６・５７・５９

3．まっすぐ走らない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
走行関係の不具合ではありませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	－

４．走行しない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
チェンジヘッドを繋いでいる引張りバネが外れていませんか。	引張りバネを元通りに取付けてください。	４１
電気部品に水が掛かっていませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	５４
配線が切れたり、接続部がゆるんでいませんか。		
コントローラが故障していませんか。		―
ミッションが故障していませんか。		―
バッテリ電圧が低下していませんか。	バッテリを充電してください。	３４
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５

５．サーキットブレーカが作動する

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
坂道または、悪路を走行していませんか。	本製品の能力に合った圃場、５度以下の坂道を走行してください。	３８
積荷が重過ぎませんか。	積荷を軽くしてください。	４２

６．速度が遅くなった

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
走行速度調整ダイヤルを最高速にしても速度が出なくなった。	バッテリを充電してください。	３４
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	４２
コントローラが故障していませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	―
バッテリ電圧が低下していませんか。	バッテリを充電してください。	３４
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５

７．作業台が上昇しない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	４２
シリンダーが故障していませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	―
配線が切れたり、接続部がゆるんでいませんか。	販売店、ＪＡに相談してください。	５４
バッテリ電圧が低下していませんか。	バッテリを充電してください。	３４
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５

８．稼動時間が短くなった

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
バッテリ電圧が低下していませんか。	バッテリを充電してください。	３４
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５

９．充電できない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
充電器が故障していませんか。	充電器のブレーカボタンを点検してください。それでも充電できない場合は、販売店、ＪＡに相談してください。	３６
バッテリの寿命が来ていませんか。	バッテリを交換してください。	５５

１０．音が鳴らない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
電源を入れても音が鳴らない。	傾斜センサーの故障が考えられますので、お買い上げいただいた販売店、ＪＡに相談してください。	３８

8章 用語解説

あ　行

アイドラー　　遊動輪とも呼ばれ、クローラの張りを調整するトラックローラ。

か　行

グリスアップ　　グリスポンプでグリスニップルにグリスを注入すること。

クローラ　　走行用ゴム履帯。

さ　行

スイング　　ブーム・作業台を左右に振ること

走行ミッション　　変速と減速を行う歯車装置。

た　行

トラックローラ　　転輪とも呼ばれ、クローラを支えることを目的とした装置。

ら　行

リフト　　ブーム・作業台を上昇、下降すること

1．主要諸元

型式名			ＫＣＥＢ２５０／Ｒ
機体寸法	全長（mm）		２２７０（ブームスタンド先端～ガードレール後端）
	全幅（mm）		１２８０（クローラ外側～外側）
	全高（mm）		１２１０（ガードレール上端）
機体質量（kg）			３８５
バッテリ	型式名		ＨＣ３８－１２Ａ
	電圧		１２Ｖ×２
	容量		３８ＡＨ
モータ出力			２４Ｖ／４００Ｗ
伝動・走行部	駆動装置		１モータＤＣ２４Ｖ無段変速
	制動方式		無励磁作動形
	走行速度（km/h）	前進	０～１．７（高所作業時０～０．９）
		後進	０～１．７（高所作業時０～０．９）
	クローラ幅（mm）		１６０
	トレッド（mm）		１１２０
	接地長（mm）		１００５
作業台	寸法（mm）	長さ	４７０
		幅	５８０
	最大作業能力（kg）		作業台＝１００（作業者の体重、積載物含む）
	床面最低高（mm）		２５５
	床面最大高（mm）		２５１０
	ブームスイング角度（度）		左３０　右３０

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

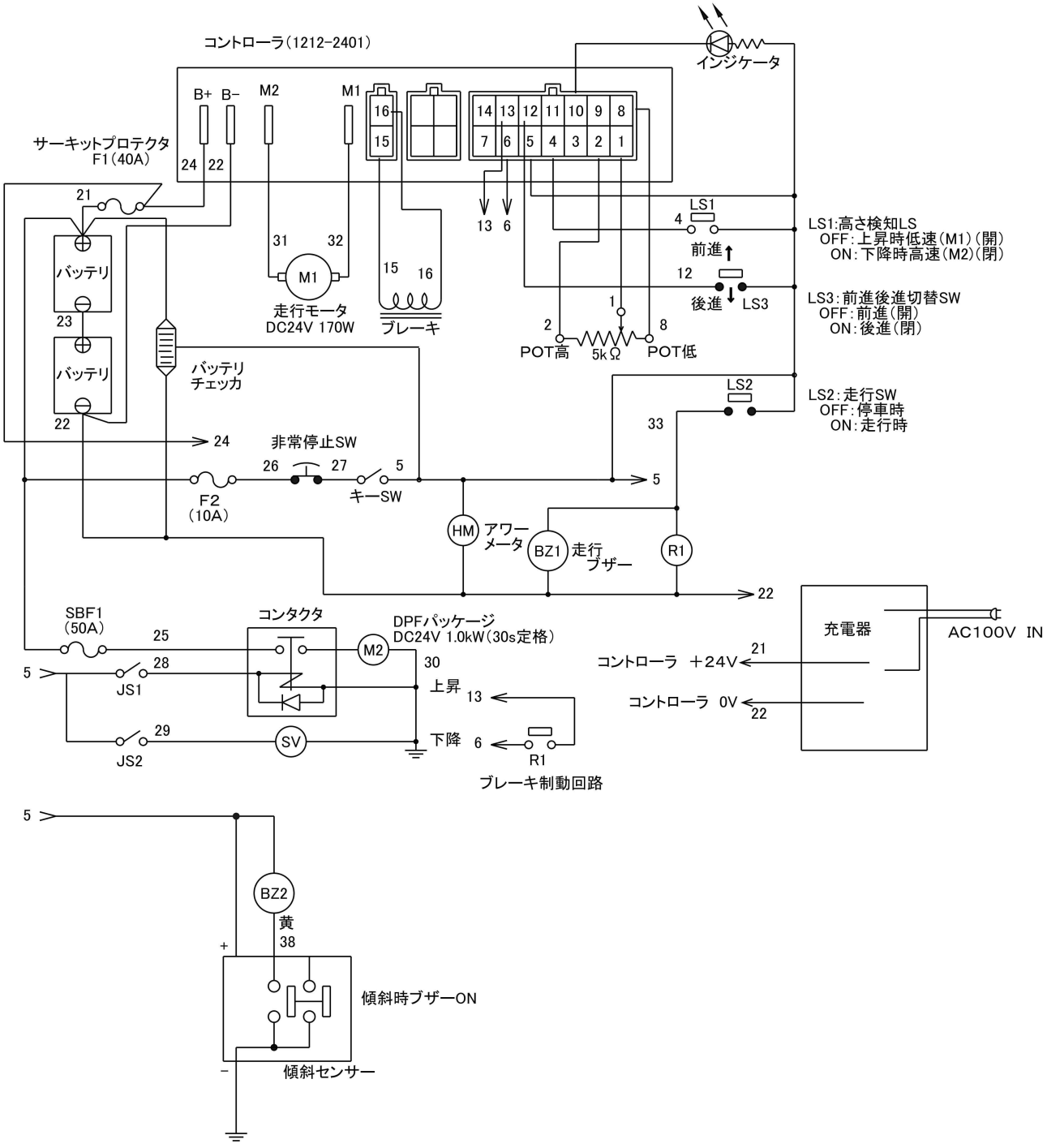
２．主要消耗部品

NO.	品名	部品番号	備考
１	タイミングベルト１０５０	１Ｅ１２６１－２１０１０	走行用
２	サイドクラッチワイヤ	１Ｅ１２６１－５１０１０	２本
３	クローラ　１６０×６０×４７	１Ｎ３５１９－３７０００	
４	バッテリ　ＨＣ３８－１２Ａ	１Ｅ１２６７－５１０２０	２ケ
５	ヒューズ５０Ａ	１Ｅ１２６１－５２０３０	
６	ヒューズ１０Ａ	１Ｅ１１６０－５２０５０	

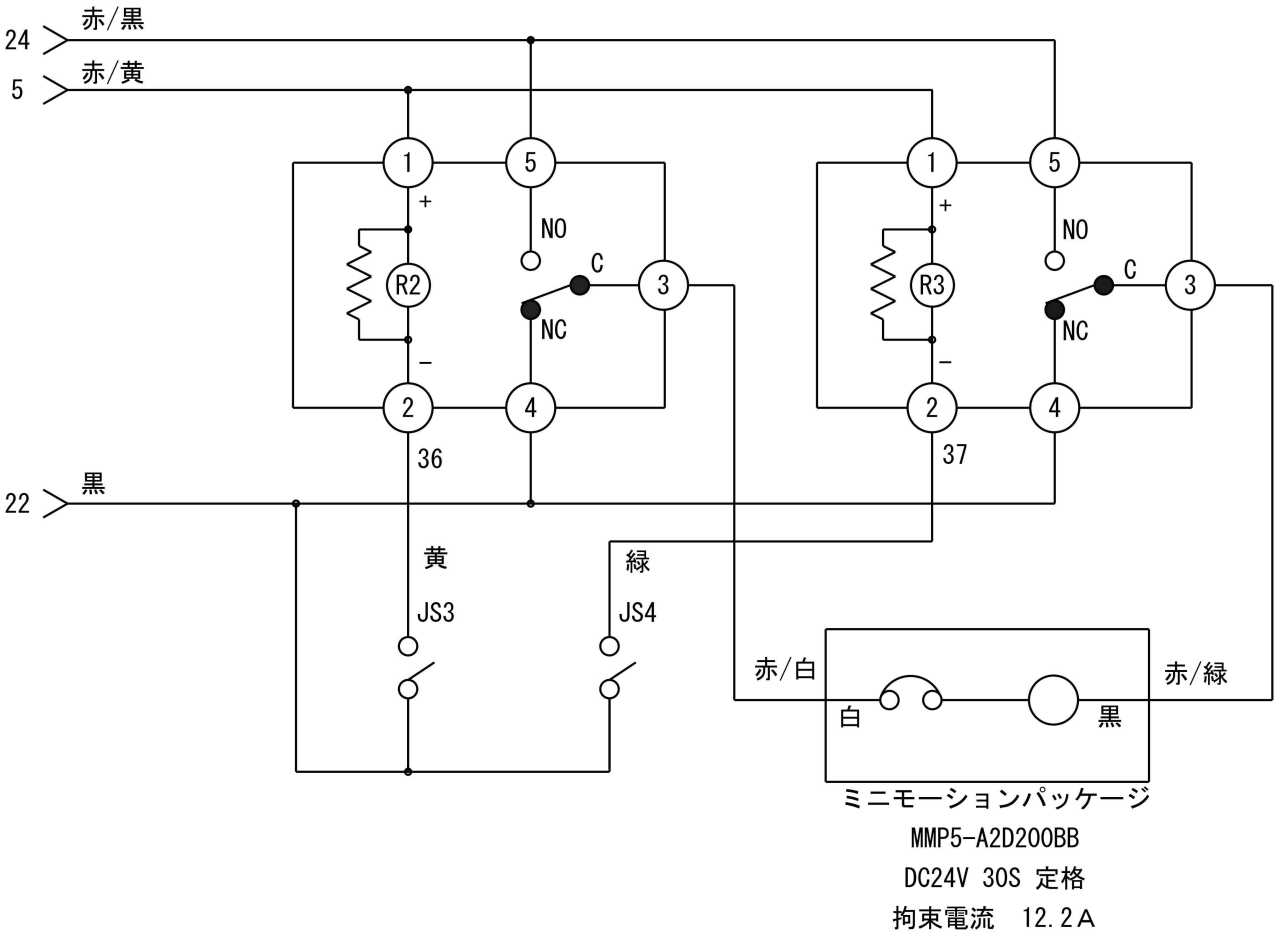
付属品

No.	品名	個数		部品番号	備考
１	シートカバー	１		ＫＣＧＳＣ／３０	
５	取扱説明書	１		１Ｅ１２６１－９５０３０	
６	保証書	１			

※付属品がすべてあるか確認してください。もし不足している物があれば、お買上げいただいた販売店・ＪＡに連絡してください。


コントローラ(1212-2401)
インジケータ
B+ B− M2 M1
サーキットプロテクタ
F1(40A)
24 22
21
バッテリ
23
バッテリ
22
バッテリ
チェッカ
31 32
M1
走行モータ
DC24V 170W
15 16
ブレーキ
13 6
LS1
4
前進
12
後進
LS3
LS1:高さ検知LS
OFF:上昇時低速(M1)(開)
ON:下降時高速(M2)(閉)
LS3:前進後進切替SW
OFF:前進(開)
ON:後進(閉)
1
2 8
POT高 5kΩ POT低
LS2
33
LS2:走行SW
OFF:停車時
ON:走行時
24
非常停止SW
26 27 5
F2
(10A)
キーSW
5
HM アワーメータ
BZ1 走行ブザー
R1
22
SBF1
(50A)
25
コンタクタ
DPFパッケージ
DC24V 1.0kW(30s定格)
M2
30
5
28
JS1
上昇 13
29
JS2
SV
下降 6
R1
ブレーキ制動回路
充電器
AC100V IN
コントローラ +24V 21
コントローラ 0V 22
5
BZ2
黄
38
+
傾斜時ブザーON
−
傾斜センサー

●リレー回路図


24
赤/黒
5
赤/黄
1
5
+
NO
C
R2
3
NC
−
2
4
36
1
5
+
NO
C
R3
3
NC
−
2
4
37
22
黒
黄
JS3
緑
JS4
赤/白
赤/緑
白
黒
ミニモーションパッケージ
MMP5-A2D200BB
DC24V 30S 定格
拘束電流 12.2A

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00~12:00 / 13:00~17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2017 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。